

P C 9 8

Mate NX

(Windows 98 インストールモデル)

<mark>活用ガイド</mark> ハードウェア編

本体の構成各部

システム設定







このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウな ど、Windows 98の基本操作に必要な用語とその意味を理 解していること、また、それらを操作するためのマウスの 基本的な動作が一通りでき、Windows 98もしくは添付の アプリケーションのヘルプを使って操作方法を理解、解 決できることを前提に書かれています。

もし、あなたがコンピュータに初めて触れるのであれ ば、上記の基本事項を関連説明書などで一通り経験して から、このマニュアルをご利用になることをおすすめし ます。

この活用ガイドは、以下の機種について書いてあります。

PC98-NX シリーズ Mate NX

MA45D/M、MA35D/M

MA45D/S、MA40D/S、MA35D/S、MA36H/S、 MA33H/S、MA30H/S

MA45D/C、MA40D/C、MA35D/C、MA36H/C、 MA30H/C、MA30H/L

(Windows 98インストールモデル)

選択アプリケーション、本機の仕様については、お客様 が選択できるようになっているため、各モデルの仕様に 併せてお読みください。尚、選択できる項目は、今後増える 可能性があります。

型番と機能仕様についての詳細は、「PART3 付録」を ご覧ください。

1998年 11月 初版

1999年 1月 二版

このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。



▲ 注意 人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ 発生が想定されることを示します。

> 注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左記の記号の場合は、感電の可能性が想定されることを示します。感電注意のほかに、発火 注意、けが注意、高温注意についても、それぞれのマークとともに記載しています。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



このマニュアルでは、機種ごとの説明をわかりやすくするために、次の記号を使っています。

このマニュアルで使用している表記の意味

本機	次の機種を指します。 PC98-NX シリーズ Mate NX MA45D/M、MA35D/M MA45D/S、MA40D/S、MA25D/S、MA26H/S、MA22H/S
	MA40D/S、MA40D/S、MA30H/S、MA30H/S、MA30H/S、 MA30H/S MA45D/C、MA40D/C、MA35D/C、MA36H/C、MA30H/C、 MA30H/L (Windows 98インストールモデル) *本機がどのモデルに該当するかは、型番を調べればわかりま す。型番の調べ方・読み方については、『はじめにお読みく ださい』と「PART3 付録」をご覧ください。
本体	ディスプレイやキーボードなどの周辺機器を含まない、 MA45D/M、MA35D/M MA45D/S、MA40D/S、MA35D/S、MA36H/S、MA33H/S、 MA30H/S MA45D/C、MA40D/C、MA35D/C、MA36H/C、MA30H/C、 MA30H/L
ディスプレイセット モデル	CRTディスプレイまたは液晶ディスプレイとセットでご購入い ただいたモデルです。
アプリケーションなし モデル	選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェ ア/ESMPRO)がない状態でご購入いただいたモデルです。
ESMPRO モデル	ESMPROクライアントライセンスが添付された状態でご購入 いただいたモデルです。
一太郎モデル	ー太郎9パックがインストールされた状態でご購入いただいた モデルです。
一太郎9パック	ー太郎9パック(一太郎9、三四郎8/R.2U、花子9、FullBand 1.2U with ATOK12)、JUSTSYSTEM電子辞書ライブラリ(研究 社 新英和・和英中辞典、岩波国語辞典)(添付)
Word モデル	Word 98、Excel 97、Outlook98 がインストールされた状態でご 購入いただいたモデルです。
Word & Excel	Microsoft _® Excel 97 & Word 98 & Outlook™98 for Windows _® 、 Microsoft _® /Shogakukan Bookshelf _® Basic マルチメディア統合 辞典Version 2. 0(添付)
ー太郎9 &1-2-3 98 モデル	ー太郎9とロータス1-2-3 98がインストールされた状態で ご購入いただいたモデルです。
一太郎 9 & 1-2-3 98	一太郎 9、 ロータス 1-2-3 98

「スタート」ボタン 「設定」	「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニュー から「設定」を選択し、横に現れるサブメニューから「コント
「コントロールパネル」	ロールパネル」を選択する操作を指します。
[]	【 】で囲んである文字はキーボードのキーを指します。
° j	『 』で囲んである文字はマニュアルの名称を指します。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称	
Windows、 Windows 98	Microsoft _◎ Windows _◎ 98 operating system 日本語版	
一太郎9	 ・一太郎モデルの場合 一太郎9パック(一太郎9、三四郎8/R.2U、花子9、FullBand 1.2U with ATOK12)、JUSTSYSTEM 電子辞書ライブラリ(研究社新英和・和英中辞典、岩波国語辞典)(添付) ・一太郎9&1-2-3 98モデルの場合 一太郎9 	
Word & Excel	Microsoft _® Excel 97 &Word 98 &Outlook™98 for Windows _® 、 Microsoft _® /Shogakukan Bookshelf _® Basic マルチメディア統合 辞典Version 2.0 (添付)	
1-2-3 98	ロータス 1-2-3 98	
ESMPROクライアント ライセンス	ESMPRO/ClientManager Ver2.0/Ver2.1、DeliveryManager Ver4.0/Ver4.1/Ver5.0(ライセンスFD)	
スーパーディスク	SuperDisk™	

このマニュアルで使用しているイラストと画面

このマニュアルに記載のイラストおよび画面は、実際のものとは異なることがあります。

技術基準等適合認定について

この装置は、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく、技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認定番号は次の通りです。

ミニタワー型、デスクトップ型

認定機器名:SF-BUQB-ST 認定番号 電話回線:S98-2422-0 省スペース型

認定機器名:SF-BUQ-ST 認定番号

電話回線:S98-2422-0

導入にあたっては、「MDMNBUQ.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。使用され ない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置で す。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に 近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして ください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。 電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。 (社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイトラインに基づく表示)

レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブが搭載されています。

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

ご注意

(1)本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。

- (2)本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気 づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへ ご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
- (4)当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずい かなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5)本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備 や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図され ておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが 生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6)海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7)本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows 98および本機に添付のCD-ROM、フロッ ビーディスクは、本機のみでご使用ください。
- (8)ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9)ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft, MS, MS-DOS, Windows, NetMeeting, Outlook, およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

Celeronは、Intel Corporationの商標です。

ー太郎、花子、FullBand、ATOK、JustNet、Shurikenは、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ビーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾 を受けています。

「一太郎9」「一太郎9パック」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、これにかかる著作権、その他の 権利はすべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

Lotusは、Lotus Development Corporationの登録商標です。

1-2-3は、Lotus Development Corporationの商標です。

Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995

YAMAHAは、ヤマハ株式会社の登録商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Corporationの登録商標です。

RIVA128は、STMicroelectronics, Inc. の登録商標です。

RAGE IICはATI Technologies, Inc.の商標です。

pcANYWHERE32 は Symantec Corporation の米国における登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

K56flexは、Lucent TechnologiesとRockwell Internationalの商標です。

SuperDisk、SuperDiskロゴは、米国イメーション社の商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 1998,1999

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。 本製品は日 本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。 また、当社は本製品に関し海外での保守サー ビスおよび技術サポート等は行っておりません。

このマニュアルの構成

このマニュアルは次のような内容で構成されています。

PART1 本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明しています。

PART2 システム設定

本機を使用環境にあわせて設定するための、BIOSセットアップメニューの使い方を説明しています。

別売りの機器を利用するときにも、状況に応じて設定を変更できます。

PART3 付録

本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

はじめに	i
このマニュアルの表記について	ii
ご注意	vi
このマニュアルの構成	vii
目次(このページです)	viii
索引	xii
本体の構成各部	1
	········ ·
日即り日が	z
◆ 沖 止 回	∠
中か月回	
電力が能と操作方法	14
電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)	
スタンパイ/スタンパイからの復帰(冒源の手動操作)	
電源の自動操作	
電源の管理について(APMモード/ACPIモード)	25
キーボード	
添付されるキーボードの種類	32
角度調整	32
USB109 キーボードと PS/2 109 キーボード	
USB 小型キーボード	
USB98 配列キーボード	39
アプリケーションキーとWindowsキーについて	
日本語入力	43
設定を変更する	45
使用上の注意	46
USB 接続のキーボードの使用上の注意	47
マウス	
マウスについて	
使用上の注意	
設定を変更する	50
ディスプレイ	51
表示できる解像度と表示色について	51

PART

目 次

ディスプレイの表示の設定を変更する	53
適合するディスプレイを使う	54
ハードディスクドライブ	55
使用上の注意	55
ドライプ番号の割り当て	57
スキャンディスクの操作手順	58
デフラグの操作手順	
フロッピーディスクドライブ	60
フロッピーディスクを取り扱うときの注意	60
使用できるフロッピーディスクについて	61
フロッピーディスクの内容の保護	61
フロッピーディスクのフォーマット	62
スーパーディスクドライブ	63
スーパーディスクを取り扱うときの注意	63
使用できるディスクについて	64
ディスク内容の保護	65
ディスクのフォーマット	66
非常時のディスクの取り出し	67
CD-ROM ドライブ	68
CD-ROM を取り扱うときの注意	68
再生できるCD-ROM の種類	69
非常時のディスクの取り出し	70
サウンド機能	71
音量の調節	71
LAN (ローカルエリアネットワーク)ボード	72
LAN (ローカルエリアネットワーク)への接続	72
LAN の設定	73
ネットワークパスワードの変更について	74
FAX モデムボード	76
FAX モデムボードについて	76
FAX モデムボードを使用するときの注意	78
Mate NX マネジメント機能	80
マネジメント機能	80

	運用管理機能	81
	セキュリティ機能	84
	障害管理機能	
	ヘルプの表示方法	
	特定の操作手順についてのヘルプ	
	設定項目のヘルプ(画面に表示されている項目につい	てのヘルプ) 88
PART	システム設定	
_	BIOS セットアップメニューについて	
9	BIOSセットアップメニューを使ってできること…	
Z	BIOS セットアップメニューを使う	
	工場出荷時の設定値に戻す	
	ハードウェア環境の設定	
	メインの設定	
	詳細の設定	
	セキュリティの設定	
	セキュリティの設定	102
	パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場)	合) 106
	省電力の設定	
	省電力管理	107
	起動の設定	
	電源の設定	110
	起動順位の設定	111
PART	付録	113
	機能一暫	114
9	利用 えんしょう えんしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう ひょうしょう しょうしょう ひょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょう	114
C	生命の記の方で成能は深いないない。	
Ŭ		
	コマンドの構成	
	コマノニ 見 割11込みしペルー覧	
	ロッピック・ソク 見 DMAチャネルの割り当て	



本機のお手入れ	155
マウスのクリーニング	156



ページ太字:説明や作業のあるページを指します。 ページ細字:図や文章に出てくるページを指します。

英数字

100BASE-TX 72
100BASE-TX/10BASE-T 用コネクタ 11
100Mbps ランプ 11
109 キーボード 33
10BASE-T 72
3.5インチフロッピーディスクドライブ 4
98 記列キーボード 39
ACPI モード 25
AC 電源コネクタ 10
AC 投入
APM モード 25
ATAPI111
ATOK12 44
ATコマンド 138
BIOS LOCK 84
BIOSセットアップメニュー 90
BIOS リビジョン 96
Caps Lock ランプ 33, 36
CD-ROM 68
CD-ROM アクセスランプ 6
CD-ROM ドライブ 5, 68
DMA チャネルの割り当て 154
DMI イベントログ 101

FAX 機能	
FAX 通信機能	76
FAX モデムによる電源の自動操	作 25
FAX モデムボード	10, 76
FAX モデムボード機能仕様 .	
I/O ロック	85, 105
IDE デバイス	108
IEC825	v
IRQ	97
JIS	v
LANDesk(R)Service	101
LAN の設定	73
LAN ボード	10
LAN ボード機能仕様	
MS-IME	44
NCU 機能	
Num Lock ランプ	33, 36
N キーロールオーバ	46
PC-11-1988	v
PCI スロット	12
PCI 設定	97
PCI バス監視	109
PK-CA101	11
PK-CA102	12
PK-SM001	84

PK-SM002 84
PK-SM003 84
PME104
Preboot Management
PS/2 接続キーボードコネクタ 12
PS/2 接続マウスコネクタ 12
RS-232C 変換アダプタ 12
Scroll Lock ランプ 33, 36
S レジスタ 147
USB コネクタ 6, 10
USB ハブ 47
VCCI
Windows +-

ア行

アース端子	12
アナログ RGB コネクタ	11
アプリケーションキー 33, 36, 40,	42
イラスト	iv
インサートキー 33, 36,	40
ウイルス 86,	104
ウィンドウアクセラレータ	51
運用管理機能	81
液晶ディスプレイ	51
エクスファーキー	40
エスケープキー 33, 36,	40
エヌファーキー	40
エンターキー	40
エンドキー 34, 37,	40
エンドユーザ管理	87

オルトキー	 33,	36,	40
音量の調節	 		71

カ行

カーソル移動キー	34,	37
カーソルキー		40
解像度		51
書き込み禁止	61,	65
拡張メモリ		96
角度調整		32
カタカナひらがな/ローマ字キー …	33,	36
かなキー		39
かなキーランプ		39
カバーオープン	· · · · · [/]	104
カバーセンサ		86
カバーのロック	· · · · · [/]	104
カバーロック		13
カバーをロック		85
画面		iv
キーボード		32
キーボード機能		96
キーロールオーバ		46
キャッシュメモリ		98
キャプスキー		39
キャプスキーランプ		39
キャプスロック/英数キー	33,	36
筐体電子ロック		85
クイックブート	1	00
クライアントモニタリング		81
グラフキー		40

工場出荷時の設定値	直			92
高調波電流規制				v
小型キーボード				36
コピーキー				39
コントロールキー		33,	36,	40

サ行

サウンド 100
サウンド機能
資源管理 81
時刻指定
自己診断
システムメモリ
自動サスペンド 107
シフトキー 33, 36, 40
周辺機器設定
瞬時電圧低下
障害管理機能
状態監視 81
省電力
初期化
シリアルコネクタ 12
スーパーディスクドライブ 4, 63
スーパバイザパスワード
スキップセクタ 56
スキャンディスク 58
スクロールボタン 48
スクロールロックキー 33, 36
スタビライザ
スタンバイ機能 14

スタンバイ状態	15
ストップキー	40
スペースキー 33, 36,	40
スマートカード	84
スリープボタン	6
スリープランプ	6
セカンダリスレープ	95
セカンダリマスタ	95
セキュリティモード	103
セキュリティロック 12,	85
ソフトウェアパワー OFF	87

タ行

タイマ 24
タイムアウト 107
タブキー 33, 36, 40
通風孔 12
データ通信機能
データモデム機能 137
ディスクアクセスランプ
ディスクイジェクトボタン 4
ディスクトレイイジェクトボタン 6
ディスプレイ 51
適用電話回線
デフォルト値
デフラグ 59
デリートキー 34, 37, 40
電源 14, 110
電源スイッチ 4
電源ランプ 4

電子ロック	85
電波障害	v
電話回線用モジュラーコネクタ …	11
電話機用モジュラーコネクタ	11
盗難防止	12
ドライブ番号	57
取り外し可能なデバイス	111

ナ行

内蔵スピーカボリューム 5,	71
日本語入力	43
ニューメリックロックキー 34,	37
認定番号	v
ネットワーク起動	103
ネットワーク接続ランプ	11
ネットワーク通信ランプ	11
ネットワークブート	111

八行

パーティション 57
ハードディスクアクセスランプ4
ハードディスクドライブ 55
パケット 82
パスワード74, 103
パスワードの解除 106
バックアップ 55, 104
バックスペースキー 33, 36, 40
ハプ 72
パラレルコネクタ 11
半角/全角/漢字キー 33, 36

表示色 51
ファイルペイ 6
ファイルペイカバー6
ファンクションキー 33, 36, 39
フォーマット 61, 62, 64, 66
復帰 15
プライマリスレープ 95
プライマリマスタ 95
プラグ&プレイ O/S 97
不良セクタ 56
プリンタインターフェース変換アダプタ 11
プリントスクリーンキー 33, 36
フロッピーアクセス103
フロッピーディスクドライブ 60
フロントマスク 7
ページアップキー 34, 37, 40
ページダウンキー 34, 37, 40
ヘッドホン端子 5, 6
ヘッドホンボリューム6
ヘルプ 88
ヘルプキー 40
変換キー
ポーズ/ブレークキー 33, 36
ホームキー 34, 37
ホームクリアキー 40
ボリュームコントロール
本機 iii
本機のお手入れ 155
本体 iii

マ行

マイクロホン端子	10
マウス	48
マネジメント機能	80
マルチポートリピータ	72
ミニDIN6ピン	12
ミニジャック	10
無変換キー 33,	36
メンテナンスウィザード	59
モデムリング	108

ヤ行

ユーザパスワード	102
輸出	. vi

ラ行

ライトプロテクト	61,	65
ライトプロテクトノッチ	61,	65
ライン出力端子		10
ライン入力端子		10
リザルトコード		145
リターンキー		40
リフレッシュレート		53
リモートコントロール		81
リモートパワーオン機能	25,	82
リンクケーブルの接続		72
<mark>ルーフカバーオープン検知</mark>		86
レーザ安全基準		v
レジューム		108

ローカルバスIDEア	゚゚ダ゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	99
ロールアップキー		40
ロールダウンキー		40
漏洩電流自主規制		v

ワ行

刮り込のレンル―見	割	IJ	込	み	レ	ベル	ノ一覧				. 149
------------------	---	----	---	---	---	----	-----	--	--	--	-------



本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア 全般の機能と取り扱いについて説明します。

R T

Ρ

Α

この章の内容

各部の名称	2
電源	14
キーボード	
マウス	
ディスプレイ	51
ハードディスクドライブ	55
フロッピーディスクドライブ	60
スーパーディスクドライブ	63
CD-ROM ドライブ	68
サウンド機能	71
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	72
FAX モデムボード	
Mate NX マネジメント機能	80
ヘルプの表示方法	



各部の名称

ここでは、本体の各部の名称とその役割について説明しています。各部の 取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページを ご覧ください。





MA45D/M、MA35D/Mの場合



MA45D/S、MA40D/S、MA35D/S、MA36H/S、MA33H/S、MA30H/Sの場合





MA45D/C、MA40D/C、MA35D/C、MA36H/C、MA30H/C、MA30H/Lの場合



電源スイッチ(①)

本体の電源を入れたり、切ったりするスイッチです。

 ジチェック // 電源スイッチを入れたり、切ったりする操作はコンピュータに負担をかける ので、少なくとも5秒以上の間隔をあけてください。「電源 (P.14)

電源ランプ

電源の状態を表示するランプです。電源が入ると点灯します。

ハードディスクアクセスランプ(🗋)

ハードディスクドライブが動作しているときに点灯します。 「ハードディスクドライブ(P.55)

● チェック // 点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容が壊れることがあります。

3.5インチフロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブ

3.5インチのフロッピー ディスクの読み書きをする装置です。 「フロッピー ディスクドライブ(P.60)

また、スーパーディスクドライブでは、スーパーディスクに大容量のデー タを書き込むことができます。「スーパー ディスクドライブ(P.63)

ディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクやスーパーディスクを取り出すときに使います。

ディスクアクセスランプ

フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブが動作しているときに点灯します。

 チェック // ディスクアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押したり、フロッピーディ スクやスーパーディスクを取り出したりしないでください。フロッピーディ スクやスーパーディスクの内容が壊れることがあります。 ヘッドホン端子(○)

ミニプラグのステレオ ヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続する と内蔵スピーカからの音は出なくなります。

内蔵スピーカボリューム(〇))

内蔵スピーカ、またはヘッドホン端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。「サウンド機能(P.71)

CD-ROM**ドライブ**

CD-ROMや音楽CD**のデータを読み出す装置です。** 「CD-ROM**ドライブ**(P.68)

CD-ROMドライブ拡大図

➡━ ミニタワー型、デスクトップ型の場合(5インチベイ)

CD-ROMドライブを取り外して、他のファイルベイ用内蔵機器に交換することができます。『ハードウェア拡張ガイド』





省スペース型の場合



-a ヘッドホン端子()

ミニプラグのステレオヘッドホンを接続します。この端子で聞くことができるのは、音楽CDの再生音だけです。

-b ヘッドホンボリューム

CD用ヘッドホン端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。

-c CD-ROMアクセスランプ

CD-ROMドライブが動作しているときに点灯します。

-d ディスクトレイイジェクトボタン

トレイを出し入れするときに使います。

USB**コネクタ(・↔)**

USB機器を接続します。

スリープボタン())

本機での作業を一時中断する際に、電力消費の少ないスタンバイ状態に 切り替えます。「電源(P.14)

スリープランプ

スタンバイ状態のときに点灯します。

ファイルベイカバー

ファイルベイにリムーパブルメディア用の内蔵機器を取り付けるとき は、このファイルベイカパーを取り外し、別売のファイルベイカパーを取 り付けます。

ファイルペイ

ファイルベイ用内蔵機器を取り付けます。ファイルベイにはサイズの違いにより、3.5インチベイ、5インチベイの2種類があります。

参照 本機の機能を拡張するためのさまざまな機器の取り付け/取り外しについて は、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。 フロントマスク

本体前面のカバーです。

スタビライザ

本体を安定させるための脚です。

本体背面



MA45D/M、MA35D/Mの場合





MA45D/S、MA40D/S、MA35D/Sの場合





MA36H/S、MA33H/S、MA30H/Sの場合





MA45D/C、MA40D/C、MA35D/C、MA36H/C、MA30H/C、MA30H/Lの場合



AC電源コネクタ

ACコンセントから本体に100Vの電源を供給するためのコネクタです。添付の電源ケーブルを接続します。

USB**コネクタ(・**↔)

USB機器を接続します。

マイクロホン端子(ミニジャック)() 🔊)

市販のマイクロホンを接続します。

ライン入力端子(ミニジャック)(() 🕀)

市販のオーディオ機器から音声信号を入力します。

ライン出力端子(ミニジャック)((*))

市販のオーディオ機器へ音声信号を出力します。

LANボードまたはFAXモデムボード

LANボードまたはFAXモデムボードが内蔵されています。 LANボードが内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネット ワーク)に接続することができます。

「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード(P.72) FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、FAXの送受信などを行 うことができます。「FAXモデムボード(P.76)

LAN**ボード拡大図**

機種によってアイコン、コネクタの位置が異なる場合があります。



⁻a 100BASE-TX/10BASE-T**用コネクタ**

FAXモデムボード拡大図

機種によってアイコン、コネクタの位置が異なる場合があります。

-e 電話機用モジュラーコネクタ



-f 電話回線用モジュラーコネクタ

-a 100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ(品)

100BASE-TX/10BASE-Tのケーブルを接続します。

-b 100Mbps**ランプ**

100Mbpsでネットワークが接続されているときに点灯します。

-c ネットワーク通信ランプ

ネットワーク上で読み込み/書き込みが発生すると点灯します。 ただし、必ずしも本機の読み込み/書き込みとは限りません。

-d ネットワーク接続ランプ

ハブ(マルチポートリピータなど)から、リンクパルスを受信すると点灯 します。

-e 電話機用モジュラーコネクタ(🕝)

電話機を接続します。

-f 電話回線用モジュラーコネクタ(、)

電話回線を接続します。

アナログRGBコネクタ(〇)

ディスプレイを接続します。「ディスプレイ(P.51)

パラレルコネクタ(昌)

プリンタなどの機器を接続します。

ジチェック ・PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリン タインターフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。

> ・パラレルコネクタには、D-Sub25ピンのシリアル機器を接続しないでくだ さい。

1

本体の構成各部

シリアルコネクタ1,2(1[〇〇〇]、2[〇〇〇])またはシリアルコネクタ([〇〇〇]) モデムやISDN TAなどの機器を接続します。

- ◆チェック !! ・工場出荷時、シリアルコネクタ2は 使用しない」になっています。使用する 場合ば ハードウェア環境の設定 (P.94)を参照して設定してください。
 - PC-9800シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプ
 タ(PK-CA102)が必要です。
 - ・RS-232C変換アダプタ(PK-CA102)は、シリアルコネクタ1のみで使用でき ます。
 - ・周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがありま す。

セキュリティロック(区)

盗難防止用のワイヤーやチェーン、錠を取り付けます。

参照 Mate NXマネジメント機能」セキュリティ機能(P.84)

アース端子(🕘)

アース線を接続します。

通風孔

本体内部の熱を逃がすための通風孔です。壁などでふさがないように注 意してください。

PCI**スロット**

本体の機能を強化したり拡張したりするための、各種ボードを挿入する スロットです。

参照 本機の機能を拡張するためのさまざまな機器の取り付け/取り外しについて は、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

PS/2接続キーボードコネクタ(====)

PS/2 109キーボードが添付されているモデルでは、PS/2 109キーボード (ミニDIN6ピン)を接続します。「キーボード(P.32)

PS/2**接続マウスコネクタ(** 🖰)

PS/2 109キーボードが添付されているモデルでは、マウス(ミニDIN6ピン)を接続します。「マウス(P.48)

カバーロック

本体のカバーの開閉を固定/解除するためのレバーです。



ここでは電源の入れ方と切り方や、電力を節約するスタンパイ機能について説明します。電源の切り方を間違えるとデータやプログラム、本機が 壊れてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の状態と操作方法

電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が切れている状態」「電源が入っている状態」「スタンバイ状態」の3つの状態があります。



電源が切れている状態

Windowsを終了するなどして本体の使用を終了している状態です。

電源が入っている状態

通常、本体を使用している状態です。

スタンバイ状態

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、ハードディスクドライブ のモータを停止するなどして消費電力を抑えますが、メモリ内のデー タを保持するための電力は供給されている状態です。作業中の内容が メモリ内に保存されているため、スタンバイ状態から復帰させるとき は素早く元の状態に戻すことができます。

休止状態

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切った状態です。普通に電源を切るのとは異なり、休止状態から復帰させると、保存した作 業内容を復元することができます。

本機では休止状態はサポートしていません。

電源の状態により、ランプとディスプレイの表示は、次のようになります。

電源の状態	電源ランプ	スリープランプ	ディスプレイの表示	ディスプレイの電源ランプ
入っている	点灯する	点灯しない	表示される	緑色に点灯する
切れている	点灯しない	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯
スタンバイ	点灯する	点灯する	表示されない	オレンジ色に点灯

使用するディスプレイによっては、黄色に見える場合があります。

●●● スタンバイ状態からの復帰

手動/自動操作によってスタンバイ状態にした本体を電源が入った状態 に復帰することをいいます。Windows 98を起動し直す必要がないので、 素早く作業を再開できます。

電源の操作方法

電源を操作するには次の方法があります。

電源を入れる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Timer-NX を利用する 1
LANによるリモートパワーオン機能を利用する 1

電源を切る

電源の操作方法
Windowsの終了メニューから「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」ボタンを押す
Timer-NX を利用する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

スタンバイ状態にする

電源の操作方法
スリープボタンを押す
Windowsの終了メニューから「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンを押す
「コントロールパネル」「電源の管理」の「システムスタンパイ」で設定する
Timer-NX を利用する
BIOSセットアップメニューで「自動サスペンドタイムアウト」を設定する

スタンバイ状態から復帰させる

電源の操作方法
スリープボタンを押す
マウスを動かす。またはキーボードのキーを押す
Timer-NX を利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する 1
FAXモデムによるリング機能を利用する
電源スイッチを押す

1は、ACPIモードでは使用できません。APMモードでのみ使用できます。

- ◆チェック? ・工場出荷時の状態では、マウスやキーボードからの入力がない状態が約15 分間続いた場合に、自動的にディスプレイの電源を切るように設定されて います。自動的に電源が切られたディスプレイを再表示する場合や、スタン バイ状態から復帰させるには、マウスを動かすか、キーボードのキーを押し てください。設定を変更するには、Windows 98のヘルプをご覧ください。
 - ・スタンパイ状態では、ネットワーク機能がいったん停止します。従って、 ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンパイ状態に なったときに、データが失われることがあります。ネットワークを使用する アプリケーションを実行する場合は、システム管理者に確認のうえ、スタン パイ機能を使用してください。
 - ・ネットワークの設定がTCP/IPでDHCPサーバーを使用する設定になっていると、起動時やスタンバイ状態から復帰の際に、通常より20秒ほど時間がかかることがあります。このような場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』「PART4 トラブル解決Q&A」の「電源を入れたが…」をご覧ください。

電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)

電源を入れる

- フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライ ブに何もセットされていないことを確認する
- 2 ディスプレイなど、周辺機器の電源を入れる

メモ

一部の周辺機器では、本体より先に電源を入れないと正しく認識されな いことがあります。

- ◆チェック // 本体のパラレルコネクタに接続されているプリンタの電源は、本体の電源より後で入れてください。
 - 3 本体の電源スイッチを押す
- チェック ? メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示 されるまでの時間は、メモリの組み合わせによって変わってきます。PK-UG-M021(256MB)を3枚増設した場合、約4秒かかります。
電源を切る

- ◆チェック? ・電源投入後、Windows 98の起動中やアプリケーションの起動中には、電源 を切らないでください。マウスポインタが、砂時計表示されていないこと、 およびハードディスクアクセスランプやディスクアクセスランプが点灯し ていないことを確認してから電源を切るようにしてください。
 - ・本体のパラレルコネクタに接続されているプリンタの電源は、本体の電源 より先に切ってください。
 - 1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する
 - 2 「スタート」ボタン「Windowsの終了」をクリック



3 「電源を切れる状態にする」をクリック



- **4** 「OK」ボタンをクリック 本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れます。電源ス イッチを押さないでください。
- 5 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

メモ

誤って電源を切ってしまうことがないように、本機では電源スイッチを 押してもすぐには電源が切れないようになっています。ソフトウェアの エラーなどで、Windows 98の操作ができなくなってしまった場合は、ま ず【Ctrl】と【Alt】を押しながら【Delete】を押してアプリケーションの強制 終了ができるかどうかを試してください。この方法でアプリケーション を強制終了できない場合は、電源スイッチを約4秒以上押し続けることに よって、強制的に電源を切ることができます。

なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直して、Windows 98を起動させ、再度、正常な方法で電源を切ってください。

メモ

電源スイッチを押して電源を切る方法

- APMモードのときは、作業中のデータを保存してアプリケーションを 終了する。 電源スイッチを押す 「Windowsを終了します。よろしい ですか?OK/キャンセル」「OK」ボタンをクリック 自動的に電源が 切れます。
- ACPIモードのときは、電源スイッチを押すと正常に電源が切れます。
 なお、電源スイッチに割り当てる機能を「コントロールパネル」「電源の管理」「詳細」タブの「電源ボタン」で変更できます。

スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を一時中断する場合は、スタンバイ状態にすることによって電力の消費を節約することができます。

スタンバイ状態にする

電源が入っている状態から、手動で、スタンバイ状態にするには、次の手 順があります。

- スリープボタンを押す、または、スタート」ボタン 「Windows の終了」をクリックし、「スタンバイ」を選択し「OK」ボタンをク リック
 電源ランプが点灯したまま、スリープランプが点灯し、スタンバイ 状態になります。
- ジチェック // スリープボタンを押しながら電源スイッチを押すと、スタンバイ状態にならずに電源が切れますので、絶対に行わないでください。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から、手動で、電源が入っている状態に復帰するには、次の3通りの手順があります。

 チェック パイ状態から、元の状態に復帰するときは、本機に負担がかかることを 避けるため、スリープランプが点灯してから少なくとも5秒以上待ってから 操作してください。

1 スリープボタンを押す

 ジチェック / スリープボタンでスタンバイ/スタンバイから復帰させる場合は、次の設定に なっている必要があります。

> BIOSセットアップメニューの「省電力管理」の「スリープボタン」がオン」 になっている。(工場出荷時の状態では、オン」に設定されています。)

1 マウスを動かすか、キーボードのキーを押す

、 マウスやキーボードでスタンバイ状態から復帰させる場合は、次の設定に なっている必要があります。電源の管理のモードがACPIモードの場合は、PS/ 2109キーボード、マウスでスタンバイ状態から復帰させることはできません。

BIOSセットアップメニューの「省電力の管理」の「入力装置によるレジューム」が「オン」になっている。(工場出荷時の状態では「オン」に設定されています。)

1 電源スイッチを押す マウスやキーボード、スリープボタンを押してもスタンバイ状態 から復帰しない場合に押してください。

注意事項

電源スイッチを押してスタンバイ状態から復帰する場合は、電源スイッ チを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると 強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ機能を使用するときの注意

スタンバイ機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを 怠ると、スタンバイ状態にするときに保存された作業中のデータが失わ れたり、元通りに復帰できないこともあります。 スタンバイ機能が使用できないとき

- ・使用するアプリケーションソフトによっては、スタンパイ状態から の復帰ができなかったり、アプリケーションソフトが正常に動作し ないことがあります。このようなアプリケーションの使用時には、ス タンパイ機能を使用しないでください。
- ・使用する周辺機器によっては、スタンバイ状態からの復帰ができないことがあります。
- ・システム変更作業(ドライバの設定や、プリンタの追加など)の途中 でスタンパイ状態になった場合には、スタンパイ状態から復帰して も正常に動作しないことがあります。デバイスマネージャ表示中や ハードウェアウィザード実行中などのシステム変更の途中でスタン パイ状態にならないようにご注意ください。
- ・FAXモデムを使って通信中のときは、スタンバイ機能が使用できな い場合があります。この場合は、通信ソフトを終了してからスタンバ イ状態にしてください。

スタンバイ内容が失われるとき スタンバイ状態のときに次のことが起きると、スタンバイ状態にする ときに保存された作業中のデータは失われます。

- ・電源ケーブルが本体やACコンセントから外れたとき
- ・停電が起きたとき

・電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windowsが正しく終了 されませんでした…」と表示されますので、画面の指示に従ってくださ い。

スタンバイ状態からの復帰が保証されない場合

次のような場合は、スタンバイ状態にするときに保存された作業中の データは保証されません。

- スタンパイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、また はスタンパイ状態からの復帰中にフロッピーディスクを取り出した り、交換したとき
- ・スタンパイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、また はスタンパイ状態からの復帰中にCD-ROMを取り出したり、交換し たとき
- スタンパイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、また はスタンパイ状態からの復帰中にPCカードの抜き差しをするなど、
 本機の環境を変更したとき
- ・スタンバイ状態のときに本機の機器構成を変更したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にするときに保存された作業中のデータは保証されません。

- ・プリンタへ出力中のとき
- ・音声または動画を再生しているとき
- フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- CD-ROMを読み取り中のとき
- スタンバイ機能に対応していないアプリケーションソフトを使用中
- ・スタンバイ機能に対応していない周辺機器を使用中
- ・ Windows 98の起動処理中、終了処理中
- ・ 通信用アプリケーションソフトを実行中
- ・ モデム/LANなどを使って通信中のとき
- ネットワークに接続しているとき
- ・本機にNEC製キーボード以外のキーボードを接続しているとき

スタンパイ状態からの復帰が正しく実行されない場合 次のような場合には、スタンパイ状態からの復帰が正しく実行されな かったことを表しています。

- ・アプリケーションソフトが動作しない
- ・スタンバイ内容を復元できない
- ・スリープボタンを押してもスタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションソフトを使用中には、スタン バイ機能は使わないでください。万一、スリープボタンを押しても復帰 できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上、押し続けてくださ い。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセッ トアップメニューの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあ ります。必要な場合は、再設定してください。

その他の注意

- ・通信ソフトを使用中の場合は、通信ソフトを終了させてから、スタン パイ状態にしてください。通信状態のままスタンパイ状態にすると、
 回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにスタンバイ状態
 にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
- ・CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。

電源の自動操作

タイマやLAN(ローカルエリアネットワーク)、回線からのアクセスに よって、自動的に電源の操作を行うことができます。

タイマ

「コントロールパネル」「電源の管理」の「システムスタンパイ」を設定 しておくと、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入 力およびハードディスクへのアクセスなどがない場合、自動的にディ スプレイの電源を切ったり、スタンパイ状態にすることができます。工 場出荷時は約15分でディスプレイの電源を切るように設定されていま す。

 ◆チェック? ACPIモードで使用時に、「スタート」ボタン 「コントロールパネル」の「電源の管理」をダブルクリックし、「システムスタンバイ」の設定時間を、「モニタの 電源を切る」の設定時間よりも後にした場合、「システムスタンバイ」は「モニ タの電源を切る」が実行されてからの時間となります。よって、次のような設 定がなされている場合、実際にシステムスタンバイが実行されるのは、「モニ タの電源を切る」の20分後である35分後となります。

「システムスタンバイ」 20分後

「モニタの電源を切る」 15分後

「システムスタンバイ」を20分後に設定したい場合は、次のように設定してください。

例1:

「システムスタンバイ」 15分後

「モニタの電源を切る」 5分後

例2:

「システムスタンバイ」 20分後

「モニタの電源を切る」 なし

「Timer-NX」のタイマ機能を使って、指定した時刻に電源を入れる/切 る、またはスタンバイ状態にする/スタンバイ状態から復帰することが できます。「Timer-NX」で指定した時刻に電源を入れることができるの は、APMモードで使用しているときだけです。ACPIモードでは使用で きません。詳しくは『活用ガイド ソフトウェア編』「PART1 アプリ ケーションの概要と削除/追加」の「Timer-NX」をご覧ください。

参照/「電源の管理について(APMモード/ACPIモード)(P.25)

リモートパワーオン機能(LANボードによる電源の自動操作)

「運用管理機能」の「リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)」 (P.82)をご覧ください。

リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、FAXや電話を受信した 場合にスタンバイ状態から復帰することができます。電源を入れること はできません。詳しくは、FAXモデムのマニュアル、『活用ガイド ソフト ウェア編』『PART1アプリケーションの概要と削除/追加」の「Timer-NX」 「リング機能の設定を行う」をご覧ください。

別売のFAXモデムボードセット(PK-UG-X021およびPK-UG-X001)を利用 しても、「Timer NX」を使ってスタンバイ状態から復帰することができま す。

電源の管理について(APMモード/ACPIモード)

本機では、電力を節約する機能を使うための電源管理のモードとして、 APMモードとACPIモードの2つのモードを使うことができます。



APM(Advanced Power Management)を使って電源の管理を行うモード です。APMとはパソコンや周辺機器の電源の管理を、BIOSやデバイスド ライバなどのソフトウェアで行うためのしくみです。本機は工場出荷時 の状態では、このAPMモードに設定されています。



ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)を使って電源の管理 を行うモードです。ACPIとは、パソコンや周辺機器の電源の管理をOSで 行うためのしくみで、Windows 98で実現できるようになりました。 モードの確認

本機がどちらのモードで動作しているかは「システム情報」で確認でき ます。

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」「アクセサリ」「システム ツール」の「システム情報」をクリック
- 2 「コンポーネント」をダブルクリック
- 3 「システム」をクリック 画面をスクロールさせ、次の情報が表示されることを確認してく ださい。
 - ・ APMモードのとき 「アドバンストパワーマネージメントサポート」
 - ・ ACPIモードのとき 「Advanced Configuration and Power Interface(ACPI)BIOS」

APMモード / ACPIモードの切り替え方法

APMモード / ACPIモードを切り替える際には、Windows 98に関して十分知識がある方が作業するようにしてください。

▼チェック / 実行の前に必ず次の注意事項の項目を参照してから、実行してください。

APM / ACPIモードの切り替え時の注意事項

割り込み(IRQ)について

ACPIモードでは、パワーマネジメント管理用に割り込みを1つ使用 します。ACPIモードへの切り替えは、使用していない割り込み(IRQ) を確認してから行ってください。

モードの切り替え

モードの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップの直後に行ってください。

APMモードからACPIモードへの切り替え

本機では、本機で提供する切り替え準備ファイル(C: ¥MODECHG ¥ACPI_APM. VBS)を使用して、モードを切り替えます。

- 1 マイコンピュータを右クリックし、メニューの中からエクスプ ローラを起動する
- 2 エクスプローラから上記のファイルを実行するど現在ACPIが 無効です。ACPIを有効に設定する場合はOKボタンを押して下さい。」というメッセージが表示されたら「OK」ボタンをクリック
- 3 「ACPIを有効にする準備ができました。」と表示されたら「OK」 ボタンをクリック
- 4 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」で、「ハード ウェアの追加」をダブルクリック
- 5 ハードウェアウィザードの説明に従って、新しいハードウェア を自動的に検出するように指定し、ハードウェアウィザードを 実行する ハードウェアが再設定されることにより、モードの切り替えが有 効になります。
- - ・「インストールするデバイスは一覧にありますか?」というメッセージが表示された場合は、「デバイスは一覧にない」を選択してください。
 - ・Windows 98のCD-ROMをセットするように要求するメッセージが表示さ れた場合は、本体ハードディスクにあるC:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS フォルダを指定して、ドライバの組み込みを行ってください。
 - ・USB98配列キーボードをご利用の場合、APMモードからACPIモードへの切 り替えを実行すると、キーボードの設定が106日本語(A01)」に変わってし まいます。切り替え完了後、再設定してください。設定方法は、「スタート」ボ タン 「プログラム」「補足説明」をご覧ください。
 - ・APMモードからACPIモード切り替えを実行すると、ディスプレイの設定が 640×480の16色モードになる場合があります。切り替え完了後、ディスプ レイのプロパティで元の設定に再設定してください。
 - 参照/「ディスプレイの表示の設定を変更する(P.53)

ACPIモード時の注意事項

ACPIモード時にパワーマネージメント機能を使用する場合は、次の項 目に注意してください。

- スタンバイ状態からの復帰中にスリープボタンや電源スイッチを 押すと、復帰後にパワーマネージメント機能が動作しなくなりま す。その場合には、一度スタートメニューのWindowsの終了からス タンバイを選択し、スタンバイ状態にした後に正常に復帰させれば 動作するようになります。
- ・MS-DOSプロンプトが一番手前に表示されているときにスタンバイ 状態にすると、スタンバイ状態から復帰させても画面が正常に表示 されない場合があります。その場合には、【Alt】+【Tab】を押してタス クを切り替えることにより正常に動作するようになります。

ACPIモードからAPMモードへの切り替え

本機では、本機で提供する切り替え準備ファイル(C: ¥MODECHG ¥ACPI_APM. VBS)およびレジストリ変更ファイル(C: ¥MODECHG ¥acpioff2.reg)を使用して、モードを切り替えます。

- 1 マイコンピュータを右クリックし、メニューの中からエクスプ ローラを起動する
- 2 エクスプローラからC: ¥MODECHG¥ACPI_APM. VBSを実行 すると「現在ACPIが有効です。ACPIを無効に設定する場合は OKボタンを押してください。」というメッセージが表示された ら「OK」ボタンをクリック
- 3 「ACPIを無効にする準備ができました。」と表示されたら「OK」 ボタンをクリック
- 4 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」で、「ハード ウェアの追加」をダブルクリック

5 ハードウェアウィザードの説明に従って、新しいハードウェア を自動的に検出するように指定し、ハードウェアウィザードを 実行する ハードウェアが再設定されることにより、モードの切り替えが有

ハードウェアが再設定されることにより、モードの切り替えが有 効になります。

- - ・「インストールするデバイスは一覧にありますか?」というメッセージが表示された場合は、「デバイスは一覧にない」を選択してください。
 - ・Windows 98のCD-ROMをセットするように要求するメッセージが表示さ れた場合は、本体ハードディスク内にあるC:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS フォルダを指定して、ドライバの組み込みを行ってください。
 - ・USB98配列キーボードをご利用の場合、ACPIモードからAPMモードへの切 り替えを実行すると、キーボードの設定が「106日本語(AO1)」に変わってし まいます。切り替え完了後、再設定してください。設定方法は、「スタート」ボ タン 「プログラム」「補足説明」をご覧ください。
 - 6 ハードウェアウィザード終了後、本機を再起動するとソフト ウェアパワーオフ機能は無効です。」というメッセージが表示 されるので「OK」ボタンをクリック
 - 7 手順4、5を再度実行する
 - 8 マイコンピュータを右クリックし、メニューの中からエクスプ ローラを起動する
 - 9 エクスプローラからC: ¥MODECHG¥acpioff2.regを実行する と「情報を追加しますか?」というメッセージが表示されるの で「はい」ボタンをクリック
 - 10 再起動する

APMモード / ACPIモードの切り替え後の注意

モード切り替え後、1.2MBフロッピーディスクが使用できなくなった場合は以下の手順で3モードFDドライバを組み込み直してください。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
- 3 「システムのプロパティ」の画面が表示されたら、「デバイスマネージャ」タブをクリック
- 4 リストの中から「フロッピーディスクコントローラ」をダブル クリック
- 5 表示されたドライバ名の中に「NEC 3-mode Floppy (FDC37C675)」が存在するか確認する
- チェック!! ここで「フロッピーディスクコントローラ」の下に「NEC 3-mode Floppy (FDC37C675)」が存在しなかった場合には、6~8の手順は必要ありません。 手順9へ進んでください。
 - 6 「NEC 3-mode Floppy(FDC37C675)」をクリックして反転表示 させてから「削除」ボタンをクリック
 - 7 「デバイス削除の確認」が表示されますので、「OK」ボタンをク リック
 - 8 Windows 98を再起動する
- ◆チェック! 再起動後にディスプレイの解像度や色数が変更されることがあります。その 場合は、手順18が終了した後に、「ディスプレイの表示の設定を変更する」 (P.53)をご覧になって元の解像度、色数に戻してください。
 - 9 「コントロールパネル」が画面上に表示されていない場合、「ス タート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック

10 「ハードウェアの追加」をダブルクリック

- ◆チェック // 新しいハードウェアデバイスをインストールする前に、実行中のアプリケー ションがある場合にはすべて終了させてください。
 - 11 「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面が表示された ら、「次へ」ボタンをクリック
 - 12 「システムにあるプラグアンド プレイ機器を検索します。」と いうメッセージが表示されたら、「次へ」ボタンをクリック 検索が開始されます。
 - 13 「インストールするデバイスは一覧にありますか?」という メッセージが表示された場合は、「デバイスは一覧にない」をク リックしてから「次へ」ボタンをクリック
 - 14 「プラグアンドプレイ以外の新しいハードウェアが自動的に 検出されます。」というメッセージが表示されたら、「いいえ(一 覧から選択する)」をクリックしてから「次へ」ボタンをクリック
 - 15 「ハードウェアの種類」のリストの中から「フロッピーディスク コントローラ」をクリックし「次へ」ボタンをクリック
 - **16** 製造元とモデルを選択する画面が表示されますので、製造元からはNECをモデル一覧からは「NEC 3-mode Floppy (FDC37C675)」を選択し「次へ」ボタンをクリック
 - 17 「完了」ボタンをクリック ファイルのコピーが始まります。
 - **18** 再起動を促すメッセージが表示されますので、「はい」ボタンを クリック

キーボード

ここでは、キーボードを使った文字入力や、キーボードの設定、調整の方法を説明します。

添付されるキーボードの種類

本機に添付されるキーボードには、接続するインタフェース、キーの配列などの違いにより、次の種類のキーボードがあります。

USB**接続のキーボード** USB109**キーボード** USB小型キーボード USB98**配列キーボード**

PS/2**接続のキーボード** PS/2 109**キーボード**

角度調整

キーボードの裏側には角度調整用の脚があります。脚を立てるとキー ボードの角度が変わります。設置状況に応じて使いやすい角度を選択し てください。



キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーのほかに、プログラムの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するプログラムに よって異なります。





テンキー



キーの使い方

1つのキーにいくつかの文字や記号が印字されているキーがあります。これらの文字や記号は、【Shift】や、日本語入力モードと組み合わせて使うことで入力することができます。これらの操作方法は、使用する日本語入力プログラムによって異なります。

(例】(A ち)と(?/・め)のキーに割り当てられた個々の文字や記号を打ち 分けるには



以上の手順は、日本語入力モードの設定がすべてデフォルト(ローマ字入力)の状態からの操作方法です。

【Caps Lock 】Num Lock 】Scroll Lock 】は、ロックされているときと、ロックされていないときでキーの機能が異なります。

それぞれのキーがロックされているときはキーボード上部のランプが点 灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき		
	英字が大文字で入力さ	英字が小文字で入力さ		
	れます。	れます。		
	テンキーから数字が入力	テンキーの数字の下に表		
【Num Lock】	されます。	示されている機能が使え		
		ます。		
【Scroll Lock】	アプリケーションによって機能が異なります。			

USB小型キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーのほかに、プログラムの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するプログラムによって異なります。





キーの使い方

1つのキーにいくつかの文字や記号が印字されているキーがあります。これらの文字や記号は、【Shift】や、日本語入力モードと組み合わせて使うことで入力することができます。これらの操作方法は、使用する日本語入力プログラムによって異なります。

(例】(A ち]と(?/・め]のキーに割り当てられた個々の文字や記号を打ち 分けるには



以上の手順は、日本語入力モードの設定がすべてデフォルト(ローマ字入力)の状態からの操作方法です。

キーをロックする

【Caps Lock 】Num Lock 】Scroll Lock】は、ロックされているときと、ロックされていないときでキーの機能が異なります。

それぞれのキーがロックされているときはキーボード上部のランプが点 灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき		
	英字が大文字で入力さ	英字が小文字で入力さ		
Caps Lock	れます。	れます。		
	キー前面に表示されてい	キー上面の文字が入力さ		
	る数字や記号が入力され	れます。		
	ます。(イラストのグレーに			
	なっているキー部)			
[Scroll Lock]	アプリケーションによって機能が異なります。			

USB98**配列キーボード**

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーのほかに、プログラムの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するプログラムによって異なります。



- (かなキーランプ
 (かな)を押すと点灯します。(Windows 98ではかなキーランプは点灯しません。)
 (CAPS):キャプスキー
- かな : かなキー
- COPY : 32-+-
- 「+1」~「+10 「vf+1~「vf+2 :ファンクションキー

- vf·3 (Num Lock-側面文字)
 - : MS-DOSモード/MS-DOS プロンプト上、またはWindows NT上では、Num Lock として動作します。Windows 98ではNum Lockは 常にON状態になっていま す。

(Scroll Lock-側面文字) vf·4

: MS-DOSモード/MS-DOS プロンプト上またはWindows NT上では、Scroll Lockとして動作します。



◆チェック // 下記は、使用しているモードによって動作が異なりますので注意してください。

	Windows 98	DOSモード/DOSプロンプト		
半角カナ入力	可能	不可		
テンキー「=」、「」入力	可能	不可		
【、」入力	「`」入力	L , 1		
「~」入力	「~」入力	۲~ ا		
「ろ」入力	入力なし	۲¥٦		
日本語切り替え	「CTRL」+「XFER」または「XFER」	「GRPH」+「vf.5」		
「Num Lock」切り替え	不可	可能		
rvf.3 ا	rvf.3 ا	「Num Lock」		
۲vf.4 J	rvf.4」	「Scroll Lock」		
۲vf.5 J	rvf.5 _	「半角/全角」		
CAPS ロック ON/OFF	"CAPS」	「SHIFT」+「CAPS」		

Windows 98上で【vf.3】を奇数回入力後、DOSプロンプト環境に移すと Num LockはOFFになります。DOSモード、またはWindows 98のDOSプロ ンプト上でNum LockがOFFでも、Windows上に環境を移すとNum Lock はONになります。 キーの使い方

白のキーは、ひとつのキーにいくつもの文字や記号が書かれています。これは、キーの数が多すぎて使いにくくならないように、ひとつのキーに何種類かの文字や記号を割り当ててあるためで、【SHIFT】【CAPS】や【かな】 と組み合わせることで、入力したい文字や記号を入力することができます。

(例】【3#あぁ】のキーに割り当てられた個々の文字や記号を打ち分ける には



以上の手順は、日本語入力モードの設定がすべてデフォルト(ローマ字入力)の状態からの操作方法です。

アプリケーションキーとWindowsキーについて

アプリケーションキーとWindowsキーはWindowsで使用できるキーで す。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標 準で次のような機能が割り当てられています。

アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。

Windows+-()

Windowsキーだけを押すと、「スタート」メニューを表示します。 Windowsキーを押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用す ることができます。

	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する
••••••••••••••••••••••••••••••••••••••	現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する
ûshift+ ∭∄+M	IIII+Mでアイコン化しているウィンドウを元に戻す
■+F1	Windows のヘルプを起動する
••••••••••••••••••••••••••••••••••••••	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する
Ctrl+ 🗐+ F	コンピュータを検索するウィンドウを表示する
	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える

日本語入力

漢字やひらがななどの日本語を入力するには、日本語入力プログラムを 使います。本機では各モデルごとに以下の日本語入力プログラムが使用 できます。

日本語入力 プログラム	アプリケーション なしモデル ESMPROモデル	一太郎モデル	Word モデル	ー太郎9 & 1-2-3 98 モデル
MS-IME98				
ATOK12				

- :インストールされており、工場出荷時に標準で使用する設定になっている日本語入力プログラム
- : インストールされている日本語入力プログラム

日本語入力のオン/オフ

日本語入力のオン/オフを切り替えるには2つの方法があります。

 ・キーボードの【Alt 】を押しながら【半角/全角/漢字】を押す(USB98配列 キーボードを除く)

【CTRL】を押しながら【XFER】を押す(USB98配列キーボードのみ)

- ▼チェック! NEC 98 Layout Keyboad XFER を設定した場合、MS-IME 98で【XFER】で 日本語入力をOFFにすることはできません。【XFER】で日本語入力をOFF に できるようにするには、「Microsoft IME 98詳細プロパティ」の「キーの設定」 で、【変換】の入力/変化済み文字なしの設定を「再変換」から「-」に変更してく ださい。

日本語変換の手順

日本語の変換にはさまざまな方法があります。ここでは、MS-IME98と ATOK12での最も簡単な手順を示します。詳しくは、MS-IME98または、 ATOK12のヘルプをご覧ください。

MS-IME98の場合

- 1 MS-IME98ツールバーの一番左のアイコンをクリックして入力 する文字の種類をクリック
- 2 文字を入力する(この段階では未確定の仮の状態)
- 3 【スペース】を押す(変換の結果が正しくない場合は、正しく変換 されるまで繰り返す)
- 4 【Enter】を押す(この段階で確定し、文字が入力される)

メモ

MS-IME98のヘルプを表示するには、MS-IME98ツールバーのヘルプアイ コンをクリックしてください。



ATOK12の場合

- 1 ATOK12ツールバーの一番左のアイコンをクリックして入力す る文字の種類をクリック
- 2 文字を入力する(この段階では未確定の仮の状態)
- 3 【スペース】を押す(変換の結果が正しくない場合は、正しく変換 されるまで繰り返す)

4 【Enter】を押す(この段階で確定し、文字が入力される)

×ŧ

ATOK12のヘルプを表示するには、ATOK12ツールバーのヘルプアイコン をクリックしてください。



設定を変更する

キーボードの応答速度やカーソルの点滅速度、使用する言語などを設定 することができます。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「キーボード」をダブルクリック この操作で次のような画面が表示されます。

キーボー	ドのプロパティ	? ×
速度	言語	
┌文	字の入力(©)	
	AA 表示の間隔(B): 	
	このボックス内でキーを押し続けて、文字の入力をテストしてください①	
力	-ソルの点滅速度(B)	
	[₩]	
	OK キャンセル 適用	(<u>A</u>)

詳しくはWindows 98のヘルプを参照してください。

使用上の注意

Nキーロールオーバ

Nキーロールオーバとは、複数のキーを同時に押した場合に、最後に入力 したキーが有効となる機能です。ただし、本機のキーボードは、疑似Nキー ロールオーバのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示さ れないことや、有効にならないことがあります。

USB接続のキーボードの抜き挿し

電源が入った状態でUSB109キーボード、USB小型キーボード、USB98配 列キーボードを抜き挿しする場合、USB接続のキーボードが取り外され たことや取り付けられたことを、本体が認識するためには数秒~10秒程 度必要です。瞬間的な抜き挿しを繰り返すとキーボード入力ができなく なることがあります。

キーボード入力ができなくなってしまった場合は、USB接続のキーボードを正しく接続した後に、電源スイッチを4秒以上押しつづけて強制的に 電源を切り、Windows 98を再起動してください。

USB 接続のキーボードの使用上の注意

USB接続のキーボード(USB109キーボード、USB小型キーボード、USB98 配列キーボード)の裏面には、USB機器を接続するためのハブが2つ装備 されています。そのうち1つは標準添付のスクロールボタン付きマウスが 接続されます。残りの1つには別売のUSB機器を接続できますが、次の制 限があります。



電源容量による接続の制限

USB機器には、接続先に要求する電源の容量によって、「ハイパワードデ バイス」と「ローパワードデバイス」の2種類に分類されます。USB接続の キーボードに接続できるUSB機器は、ローパワードデバイス」のものに限 られます。

メモ

ハイパワードデバイス:接続先に500mA以下の電源を要求するUSB機器。

例)PK-UP001(フルカラーイメージスキャナ)

PK-MC201(デジタルビデオカメラ)

ローパワードデバイス: 接続先に100mA以下の電源を要求するUSB機器。 例)PK-KB009(マウス)

PK-UP004 (バーコードリーダ)

- ・ USB接続のキーボードのUSBハブは、バスパワードハブと呼ばれるハ ブで、電源が接続先から供給されて動作するハブです。
- ・ USBの仕様では、USB機器は最大5段まで縦列接続が可能ですが、実際 のシステム運用上では2段までの縦列接続でご使用になってください。

マウス

ここでは、マウスを取り扱うときの注意や、設定の方法を説明します。

マウスについて

本機に添付されるマウスは、ご購入時に選択されたキーボードの種類により異なります。



マウスのクリックとは、マウスのボタンを押して放す操作です。特に指定がない場合は左ボタンを使います。

スクロールボタン付きマウスのスクロールボタンの使い方

USB接続のキーボードに添付されるスクロールボタン付きマウスには、 スクロールボタンがあります。通常はスクロールボタンを上に押し続け たり、手前へ引き続けることで上下にスクロールします。また、スクロー ルボタンをクリックしたり、押し続けたときに(全)(スクロールアイコン) が表示されます。その場合は、三角マークの方向にマウスを動かすと画面 を上下にスクロールさせることができます。スクロールボタンを再度ク リックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。

使用上の注意

マウスの取り扱い

マウスを使うときは、次のことに注意してください。注意を守らずに使用すると、マウスの故障の原因となります。

- ・ ほこりや消しゴムのかすなどのある場所で使わない
- コードを引っかけない
- ・ コードを強く曲げたり、引っ張ったりしない
- ・裏面のネジを外さない、分解しない
- ・動きが悪くなってきたら、ボールとローラーの汚れを掃除する 「PART3 付録」の「本機のお手入れ(P.155)

Windows 98の設定

描画速度の速いウィンドウアクセラレータでは、「ポインタの軌跡」を「表 示する」に設定しても、軌跡が表示されない場合があります。

設定を変更する

マウスの応答速度やマウスポインタの形などを設定することができま す。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」「コントロールパネル」をクリック
- **2** 「マウス」をダブルクリック この操作で次のような画面が表示されます。

マウスのプロパティ		? >
ボタン ポインタ 動作	1	
ボタンの選択(日)		
● 括きき用(B)	○ 左きき用(1)	
左ボタン: - 通常の選択 - 通常のドラッグ		右ボタン: - 状況に応じたメニュー - 補助ドラッグ
遅く	æ	7 ,2,⊦: 2, -
		±
	UK	キャンピル 週月(日)

詳しくはWindows 98のヘルプを参照してください。

ディスプレイ

本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お 使いの用途に応じた解像度や表示色に切り換えて使用できます。

表示できる解像度と表示色について

本機では、表示する解像度と表示色は、以下の水平走査周波数・垂直走査周波数で表示可能となります。



MA45D/M、MA35D/M



MA45D/S, MA40D/S, MA35D/S, MA36H/S, MA33H/S, MA30H/S



MA45D/C, MA40D/C, MA35D/C

解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	15 インチ CRT ディ スプレイ (DV15A2)	17 インチ CRT ディ スプレイ (DV17B2)	14 インチ 液晶ディ スプレイ (F14T3W) (F14S1W)	15 インチ 液晶ディ スプレイ (F15T1) (F15T2W) (F15S1W)	18 インチ 液晶ディ スプレイ (F18S1W)
	256 色	43.3	85.0			×	×	×
640 × 480	32,768色	37.5	75.0					
	1,677 万色	31.5	59.9					
	256 色	53.7	85.1			×	×	×
800 × 600	32,768色	46.9	75.0					
	1,677 万色	37.9	60.3					
		68.7	85.0			×	×	×
4 004 700	25612	60.0	75.0					
1,024 × 768	32,768世	56.5	70.1	×	×			
	1,6//力巴	48.4	60.0			×	×	×
	256 色	80.0	75.0	×	×	×	×	
1,200 × 1,024	32,708 E	64.0	60.0	×		×	×	

画面の位置、サイズなどの調整が必要な場合があります。

- ジチェック ?? 液晶ディスプレイは、Windowsのセットアップが完了した後、画面の調整が 必要になる場合があります。調整方法については、液晶ディスプレイに添付の 取扱説明書をご覧ください。
 - 参照 『活用ガイド ソフトウェア編』 PART1 アプリケーションの概要と削除/追 加」の「液晶ディスプレイ調整ツール」



MA36H/C、MA30H/C、MA30H/L

解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	15 インチ CRT ディ スプレイ (DV15A2)	17 インチ CRT ディ スプレイ (DV17B2)	14 インチ 液晶ディ スプレイ (F14T3W) (F14S1W)	15 インチ 液晶ディ スプレイ (F15T1) (F15T2W) (F15S1W)	18 インチ 液晶ディ スプレイ (F18S1W)
	256 色	43.3	85.0			×	×	×
640 × 480	65,536色	37.5	75.0					
	1,677 万色	31.5	59.9					
	256 色	53.7	85.1			×	×	×
800 × 600	65,536色	46.9	75.0					
	1,677 万色	37.9	60.3					
4 004 700	256色	60.0	75.0					
1,024 × 768	^{65,536} 色 1,677 万色	56.5	70.1	×	×			
1,280×1,024	256 色 65,536 色	64.0	60.0	×		×	×	

画面の位置、サイズなどの調整が必要な場合があります。

ディスプレイの表示の設定を変更する

ディスプレイの解像度やデスクトップの配色などを設定することができます。

1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル をクリック

- 2 「画面」をダブルクリック
- 3 「設定」タブをクリック この操作で次のような画面が表示されます。

表示される画面は、機種やモデルにより異なります。

画面の70パティ ジン
背景 スクリーン セーバー 「デザイン」効果 Web 設定
ディスプレイ: NEC F14T1 - Cirrus Logic 546X 1.70g
色 「High Color (16 ビット) ・ 大 640 × 480 ピクセル
■ Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする 詳細の… 詳細の…
OK キャンセル 適用(公)

詳しくはWindows 98のヘルプをご覧ください。

ジチェック? リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定値はセットアップが完了したときに、本体とモニタの組み合わせで最も適した値に自動的に設定されます。リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定は機種によってば 画面のプロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを設定すると画面が乱れます。通常ご使用になるときは設定を変更しないでください。
適合するディスプレイを使う

本機に接続するディスプレイは「表示できる解像度と表示色について」 (P.51)を参考に、適合するディスプレイを使用してください。

別売のディスプレイについて

本機には別売のディスプレイも接続することができます。別売のディスプレイを使用する場合は、以下のことに注意してください。

- Windows 98を使用する場合は、640×480ドット以上の解像度に対応したディスプレイを使用してください。
 別売のディスプレイを使用する場合は、ディスプレイに合わせて、本体の設定を変更する必要があります。
- 本体が、ディスプレイに合わせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。
- 別売のディスプレイを使用する場合は、解像度、走査周波数の条件を満たしていることを確認してください。
- ディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、ディスプレイ 側の微調整が必要な場合もあります。
- 次の別売のディスプレイは使用できません。

PC-KM212

PC-KM174

液晶ディスプレイ調整ツールについて

液晶ディスプレイの画面を調整する場合、本機にあらかじめインストー ルされている液晶ディスプレイ調整ツールをご利用ください。

ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブは、プログラムやデータを保存する非常に精密 な装置です。振動や衝撃などが加わらないよう、取り扱いにご注意くださ い。コンピュータの使用中に、ハードディスクドライブで障害が発生する こともありますが、軽い障害であれば、スキャンディスクを使って修復で きる場合があります。また、大切なデータを保護するため、定期的にデー タのバックアップをとるようおすすめします。

使用上の注意

ハードディスクドライブは、たいへん精密な機械です。次のことに注意してください。

温度、湿度条件を守ってください。

<u>温度10~35</u>、湿度20%~80%(ただし結露しないこと)

ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。

電源が入っているときは、本体に衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。 電源を切るときは、Windows 98のシャットダウンを行ってから電源を切ってください。 正常な終了手順に従わずに電源を切ると、ディスク上のデータが壊れてしまうことがあ ります。

電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。

バックアップはこまめにとる

本機に内蔵されているハードディスクドライブは、非常に精密に作られ ています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの 間は、わずかしか空いていません。このため、データを読み書きしている ことを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を 与えても故障の原因となることがあります。また、温度、湿度条件を守れ ない環境での使用が続いた場合は、ハードディスクドライブ内部で使用 している部品から極微量なガスが発生します。このガスは、磁気ヘッドに 付着したり、二次的にマイクロダストを発生し、磁気ヘッドの姿勢を乱す など故障の原因となることがあります。ハードディスクドライブが故障 すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまい、復帰できない 可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、 バックアップをこまめにとることをおすすめします。

参照
『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART1 アプリケーションの概要と削除/ 追加」の「Masty Data Backup」、Windows 98のヘルプ アプリケーションで作成したデータは、アプリケーションによっては自動的に保存場所が決められている場合がありますので、バックアップを とる場合はアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」、または「スキップセクタ」といいます。パーソナルコンピュータは、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、Windows 98の「スキャンディスク」などを実行 すると、「不良セクタ」またば、スキップセクタ」と表示されることがあり ますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防され ていたことを表しており、異常ではありません。

また、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全 ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数が次の表の値であれ ば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

内蔵ハードディスク	正常値
3.2G バイト	3,200,000,000 バイト以上
4.3G バイト	4,300,000,000 バイト以上
6.4G バイト	6,400,000,000 バイト以上
8.4G バイト	8,400,000,000 バイト以上
16.8G バイト	16,800,000,000 バイト以上

表の正常値は、領域を分割しない場合の値です。

メモ

ハードディスクの記憶容量は、1Mバイト=1,000,000バイト、1Gバイト= 1,000,000,000バイトで計算したときのM、Gバイト値を示してあります。 OSによっては、1Mバイト=1,048,576バイトでMバイト値を、1Gバイト= 1,073,741,824バイトでGバイト値を計算していますので、この値よりも小 さな値で表示されます。

メモ

本機で使用できる内蔵ハードディスクのセクタ長は、512バイトです。

ハードディスクドライブの動作音について

ハードディスクドライブの動作中、本機より小さな音がする場合があり ますが、異常ではありません。

ドライブ番号の割り当て

ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブなどには、それ ぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」といいます。 本機のハードディスクドライブは、工場出荷時には第1パーティション (ドライブ番号:Cドライブ)として2GBの領域だけが確保されています。 残り(未使用)の領域を使用するためには、領域を確保し(パーティション を切り)、ドライブ番号を割り当てる必要があります。

工場出荷時に割り当てられているドライブ番号は次の通りです。

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライズ(第1パーティション、2GB)
Qドライブ	CD-ROM ドライブ

メモ

- ・残りの領域を確保するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドについては『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART2 再セットアップするには」の「ドライブを変えて再セットアップする カスタム再セットアップ」をご覧ください。
- ハードディスクドライブの全体容量はモデルによって異なります。

スキャンディスクの操作手順

スキャンディスクを使用すると、ハードディスクのファイルやフォルダ にデータエラーがないかチェックできます。

Windows 98が起動している場合(通常の場合)

- 1 「スタート」ボタン「プログラム」「アクセサリ」「システム ツール」「スキャンディスク」をクリック
- 2 エラーをチェックするドライブを選択する
- 3 「チェック方法」で「標準」を選択する
- 4 「エラーを自動的に修復」をクリックしてチェックを付ける
- 5 「開始」ボタンをクリック
- 6 「結果レポート」が表示されたらレポートを読み、エラーが発見 されなかった場合は、「閉じる」ボタンをクリック エラーが発見された場合は、画面の指示に従ってください。
- 7 もう一度 閉じる」ボタンをクリック

Windows 98が起動できなかった場合(異常があった場合)

- 1 本体の電源を入れる
- 2 「NEC」のロゴ表示画面で、「F2 キーを押すと、セットアップが 起動します。」と表示されたら、すぐに【Ctrl】を「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されるまで押す
- 3 「5.Command prompt only」を選択して[Enter]を押す
- 4 コマンド プロンプトから scandisk と入力し、[Enter]を押す

- 5 エラーが発生した場合は、ファイルに変換する」等を選択して 修復する
- 6 「クラスタスキャンを実行しますか?」のメッセージが表示されたら矢印キーで「いいえ」を選択して【Enter】を押す
- 7 【X】を押してスキャンディスクを終了する

「PART2 再セットアップするには」をご覧ください。

 チェック // 定期的にスキャンディスクを起動して、ハードディスク上にエラーが無いこ とを確認してください。 メンテナンスウィザードを利用すると、定期的にスキャンディスクを起動す

スノテナノスウィリートを利用すると、定期的にスキャノティスクを起動することができます。メンテナンスウィザードの起動方法は次の通りです。 「スタート」ボタン「プログラム」「アクセサリ」「システムツール」「メンテナンスウィザード」をクリックスキャンディスクの結果、システムに重大な問題が発見された場合は再セットアップが必要になります。その場合は『活用ガイド ソフトウェア編』

デフラグの操作手順

ハードディスクを長い間使っていると、データがディスクの空いている 場所に、ばらばらに保存されるようになります。データが連続していない と、データを読み書きする時間が長くなります。デフラグを使うと、この ようなばらばらになったデータを、最適な場所に整理することができま す。

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」「アクセサリ」「システム ツール」「デフラグ」をクリック
- 2 「ドライブの選択」の画面でデフラグを実行するドライブを選 択する
- **3** 「OK」ボタンをクリック
- 4 「ディスクの最適化」ダイアログボックスが表示されたら「はい」 ボタンをクリック

▼チェック! デフラグ実行中は、絶対に本機の電源を切らないでください。

フロッピーディスクドライブ

コンピュータに入力したプログラムやデータは、フロッピーディスクに 書き込んで保存することができます。

フロッピーディスクを取り扱うときの注意

フロッピーディスクが壊れると、大切なデータやソフトウェアが使えな くなります。次の点に注意して大切に取り扱ってください。



使用できるフロッピーディスクについて

フロッピーディスクには2DD、2HDの2種類があります。本機で読み書き またはフォーマットできるフロッピーディスクは次の通りです。

フロッピーディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット
2DD	640KB	×	×
	720KB		
2HD	1.2MB		×
	1.44MB		

MS-DOSまたはWindowsでフォーマットされたものが使用できます。

 ◆チェック? 1.2MBのフロッピーディスクは、Windows 98の「ディスクのコピー」でパッ クアップが取れません。また、「ディスクのコピー」のコピー先で使用するフ ロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォー マットされたフロッピーディスクを使用してください。(これはMS-DOSプロ ンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です。)

メモ

1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1024バイト/セクタ)の2 種類があります。1.25MB(1024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサ ポートしているモードです。

フロッピーディスクの内容の保護

フロッピーディスクは保存したデータを誤って消してしまわないように するために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになってい ます。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、データの読み 出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要 なデータの入っているフロッピーディスクはライトプロテクトしておく 習慣をつけましょう。

ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、 書き込み禁止になります。



フロッピーディスクのフォーマット

市販のフロッピーディスクには、フォーマット済みのものと、未フォーマットのものがあります。未フォーマットのフロッピーディスクを購入した場合は、使用する前にフォーマット処理(初期化)を行う必要があります。

フォーマットの手順

- **1** フロッピーディスクをドライブにセット
- Windows 98のデスクトップで「マイコンピュータ」をダブル クリック、または「スタート」ボタン「プログラム」「エク スプローラ」をクリック
- **3** 「3.5インチFD」をクリック
- 4 「ファイル」「フォーマット」を選択する
- 5 「フォーマット」の画面が表示されたら、「通常のフォーマット」 を選択し「開始」ボタンをクリック
- 6 「フォーマット結果」が表示されたら「閉じる」ボタンをクリック
- 7 「フォーマット」の画面で「閉じる」ボタンをクリック
- チェック/・未フォーマットのフロッピーディスクをフォーマットする場合、ディスクのチェックに時間がかかる場合があります。フォーマット開始後にフロッピーディスクドライブのアクセスランプがつきっぱなしになった場合は、しばらくするとフォーマット処理が開始されます。
 - ・マイコンピュータまたはエクスプローラで2DDのフロッピーディスクを 720KBでフォーマットした場合、フロッピーディスクをドライブから一度 取り出し、再度入れてからご使用ください。フォーマット後、フロッピー ディスクを取り出さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが 正常に終了していてもエラーが発生する場合があります。クイックフォー マットされたフロッピーディスクにはこの手順は必要ありません。

スーパーディスクドライブ

スーパーディスクドライブが標準で搭載されているモデルでは、従来の フロッピーディスクに加えて、120MBの記憶容量を持つスーパーディス クが使用できます。

スーパーディスクを取り扱うときの注意

スーパーディスクが壊れると、大切なデータやソフトウェアが使えなく なります。次の点に注意して大切に取り扱ってください



使用できるディスクについて

本機では、2DD、2HDの2種類のフロッピーディスクと、スーパーディスク が使用できます。本機で読み書きおよびフォーマットできるディスクは 次の通りです。

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット
フロッピーディスク 2DD	640KB	×	×
	720KB		
フロッピーディスク 2HD	1.2MB		×
	1.44MB		
スーパーディスク	120MB		

MS-DOSまたはWindowsでフォーマットされたものが使用できます。

- チェック ?? ・スーパーディスクドライブに1.2Mバイトでフォーマットされたフロッピー ディスクをセットして、1.44Mバイトでフォーマットする場合、エラーメッ セージが表示されることがあります。その場合は、「スタート」ボタン 「プ ログラム」の「MS-DOSプロンプト」をクリックし、MS-DOSプロンプトを起 動させ、次のように入力してください。 FORMAT A: /F:1.44【ENTER】
 - ・1.2Mバイトのフロッピーディスクおよびスーパーディスクは、Windows 98 の「ディスクのコピー」でバックアップが取れません。また、「ディスクのコ ビー」のコピー先で使用するフロッピーディスクは、コピー元のフロッピー ディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用して ください。(これはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様で す)

メモ

1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1024バイト/セクタ)の2 種類があります。1.25MB(1024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサ ポートしているモードです。

ディスク内容の保護

ディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするため に、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライ トプロテクトされているディスクは、データの読み出しはできますが、 フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入って いるディスクはライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。 ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、 書き込み禁止になります。



このイラストはスーパーディスクのものです。

ディスクのフォーマット

市販のフロッピーディスク、スーパーディスクには、フォーマット済みの ものと、未フォーマットのものがあります。未フォーマットのディスクを 購入した場合は、使用する前にフォーマット処理(初期化)を行う必要が あります。

フォーマットの手順

- 1 ディスクをドライブにセットする
- 2 「スタート」ボタン 「プログラム」「MS-DOSプロンプト」を クリック
- 3 キーボードから次のようにして【Enter】を押す FORMAT スーパーディスクドライブ名:
- ジチェック // スーパーディスクをフォーマットする場合は、FORMATコマンドにはオプションを付けないでください。

4 画面の指示に従う

メモ

容量、フォーマットの種類は必要に応じて設定してください。詳しくは、 "FORMAT /? "で表示されるヘルプをご覧ください。

非常時のディスクの取り出し

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクイジェクトボタン を押してもディスクが取り出せない場合は、次の手順で強制的に取り出 すことができます。

- ▼チェック!/ 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。
 - 細くて丈夫な針金を用意する 大きめのペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



2 スーパーディスクドライブの非常時ディスク取り出し穴(直径約2mm)に針金を差し込み、強く押すディスクが少し飛び出します。



3 ディスクを取り出す



CD-ROM**ドライブ**

CD-ROMはデータやプログラムが書き込まれているCDです。本機では音 楽用のCDを再生することもできます。

⚠警告

CD-ROMは、CD-ROM対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったりスピーカを破損したりする原因となります。

CD-ROMを取り扱うときの注意

CD-ROMを破損しないように、次の点に注意して大切に扱ってください。



本機に標準で内蔵されているCD-ROMドライブでは、ISO9660に準拠した 下記のCD-ROMを再生・表示することができます。

規格	概要		
Photo CD マルチセッション	写真を100枚まで記録できる追記型のCD		
CD-DA (CD-Digital Audio)	一般の音楽 CD		
	プログラム用のCD-ROMでは音楽トラック		
	の部分のこと		
CD-ROM XA	CD-Iで提案されたマルチメディアシステム		
(CD-ROM eXtended Architecture)	を、既存のパーソナルコンピュータでも実		
	現できるようにした規格		
ビデオ CD	MPEG1という圧縮方式を用いて記録された、		
	動画用のCD-ROM		
CD-I (CD-Interactive media)	マルチメディアシステムを実現するために		
	提案された規格		
	再生用のソフトウェアやハードウェアまで		
	を含めて規格されている		
CD Extra (CD PLUS)	一般の音楽CDに文字や画像などを記録で		
	きるようにした規格		
CD-RW (CD-Rewritable)	上書き書き込みができるようにしたCD-ROM		
CD-G (CD-Graphic)	カラオケ用CDなどに使用される音楽CDの		
	規格。歌詞や簡単な絵などの表示もできる		
CD-R (CD-Recordable)	書き込みができるCD-ROM		
	マルチセッション対応の場合は、複数回に		
	分けての書き込みも可能		

添付されているプレーヤ-NXで再生・表示できます

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追 加」の「プレーヤ-NX」

非常時のディスクの取り出し

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイイジェクト ボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、次の手順で強制 的に取り出すことができます。

▼チェック!/ 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。

1 細くて丈夫な針金を用意する

大きめのペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



2 非常時ディスク取り出し穴(直径約2mm)に針金を差し込み、強く押す

ディスクトレイが15mmほど飛び出します。



3 ディスクトレイを手で引き出し、ディスクを取り出す



4 ディスクトレイをドライブの中に押し込む



サウンド機能

本機には音声を録音、再生するためのサウンド機能が内蔵されています。 音声は内蔵スピーカまたは外部のオーディオ機器から再生することがで きます。

音量の調節

音量の調節には2通りの方法があります。どちらかの方法で音量が最小に なっていると、音が出ないので注意してください。

内蔵スピーカボリューム

本体の内蔵スピーカボリュームを右へ回すと音が大きくなり、左に回す と小さくなります。



ボリュームコントロール

「スタート」ボタン 「プログラム」「アクセサリ」「エンターテイメン ト」「ボリュームコントロール」をクリックすると、次のような画面が表 示されます。

 新リュームコントロール オフ『ション(P) ヘルフ『 ヘルフ『 ・) 	Ð			
ホツュームコントロール ハランス	542 Λ*522 ♪	CDオーディオ ハランス ひーーー 📢	Wave アウト パランス ひ ー ト く	Midi アウト パランス ひ ー ト ()
音量	音量	音量	音量	音量
□ 全ミュート(<u>M</u>)	<u> ≷a−⊧(M</u>)	<u> </u>	<u></u> ≷⊒−⊧(<u>M</u>)	□ ≷⊒−Ւ(<u>M</u>)
DS-XG Mixer				

表示される画面はモデルにより異なります。 詳しい使い方についてはWindows 98のヘルプをご覧ください。

LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード

LANボードが標準で内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリア ネットワーク)に接続することにより、離れた所にあるコンピュータ同士 で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信すること ができます。ここではLANへの接続手順を簡単に説明します。

LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続

接続前の確認

LANボードが標準で内蔵されているモデルでは、100BASE-TXまたは 10BASE-Tに対応したLANに接続することができます。本機をネットワー クに接続するには、別売のマルチポートリピータ(ハブ)と、別売の専用 ケーブル(リンクケーブル)が必要です。詳しくば LANボード機能仕様」 (P.136)をご覧ください。 100BASE-TXで使用するためには、カテゴリ5のリンクケーブルが必要

100BASE-TXで使用するためには、カテコリ5のリンクケーフルが必要 です。

接続方法

リンクケーブルの接続方法については"はじめにお読みください』をご覧 ください。

◆チェック // 本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管 理者の指示に従って、リンクケーブルの接続を行ってください。 ここではLANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法 を簡単に説明します。詳しくは『Microsoft® Windows® 98ファーストス テップガイド』またはWindows 98のヘルプの中にあるオンライン形式 の『Microsoft® Windows® 98ファーストステップガイド』の「第5章 高度な 機能」の「ネットワークを使う」をご覧ください。

ネットワークのセットアップ

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワークの設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 4 必要な機能を追加

ネットワーク上で自分のコンピュータを認識させる

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワーク設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 4 共有サービスを追加
- 5 「識別情報」タブをクリック
- 6 「コンピュータ名」、「ワークグループ」、「コンピュータの説明」 に、必要な情報を入力

7「OK」ボタンをクリック

♥チェック! 設定方法がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に 相談してください。

ネットワークパスワードの変更について

ここではLAN(ローカルエリアネットワーク)に接続するためのパスワードの変更方法について説明します。ご利用になっているネットワークの 設定によって、操作方法が異なりますのでネットワークの設定にあった 説明を参照してください。

「Microsoftネットワーククライアント」で Windows NTのドメインに ログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと同一の パスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン 「設定」「コントロールパネル をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワード の変更」ボタンをクリック
- 4 「Windowsパスワードの変更」の画面で Microsoftネットワー ク」を選択して OK」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパス ワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」 ボタンをクリック
- 6 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、 「OK」ボタンをクリック

「Microsoftネットワーククライアント」で Windows NTのドメインに ログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと異なる パスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- **3** 「パスワードの変更」タブをクリックし、「ほかのパスワード」ボ タンをクリック
- 4 「パスワードの選択」の画面で、「Micorsoftネットワーク」を選択 して「変更」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの変更」の画面で、「古いパスワード」、「新しいパス ワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」 ボタンをクリック
- 6 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、 「OK」ボタンをクリック

「Microsoftネットワーククライアント」で Windows NTのドメインに ログオンする」を設定していない場合

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワード の変更」ボタンをクリック
- 4 「パスワードの変更」の画面で、「古いパスワード」、「新しいパス ワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」 ボタンをクリック
- 5 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、 「OK」ボタンをクリック



FAXモデムボードが標準で内蔵されているモデルでは、FAX通信機能、 データ通信機能などを利用できます。また市販の電話機を接続するため のコネクタがついています。

参考 ATコマンドについて 付録 ATコマンド(P.138)

FAXモデムボードについて

ここでは、FAXモデムボードの機能を説明します。

データ通信機能

本機にインストールされている次のデータ通信ソフトウェアを使用することにより、パソコン通信などのデータ通信を行うことができます。

・ Microsoft Windows 98のハイパーターミナル

その他のデータ通信ソフトウェアでは動作しない可能性があります。

FAX**通信機能**

本機のデータをダイレクトにFAXに送信できます。 また、本機でFAXを受信でき、効率的にFAX送受信をサポートします。

最高56000bpsまでの各種通信

FAXモデムは、米国ロックウェル社等提唱のK56flex、およびV.90を採用しています。K56flex、およびV.90では、受信時最高56000bps、送信時最高 33600bpsのデータ通信が可能です。ただし、56000bpsで受信するために は、次の条件があります。

- ホスト(インターネットサービスプロバイダ等)がK56flexまたはV.90に 対応していること。
- 使用している通信・電話回線経路が、ホストから電話局までがすべてデジタル化されていて、デジタルからアナログへの変換が1度だけしか行われないこと。



FAXモデムボードを使用するときの注意

適用電話回線について

回線は、電話回線(以降、加入電話回線と呼びます)、総合デジタル通信網 (ISDN)、ファクシミリ通信網、専用回線に区別することができます。FAX モデムボードは、加入電話回線に適合するように設計され、技術基準適合 認定を受けています。「技術基準等適合認定について(P.v) 加入電話回線以外と接続すると、FAXモデムボードやパソコン本体等を 破損する場合があります。

- コードレスホンや親子電話、構内回線など、加入電話回線以外の回線を ご使用の場合は、正常なデータの送受信ができない場合があります。
- ・FAXモデムボードは、ファクシミリ通信網には対応していません。
- FAXモデムボードに接続できる回線は2線式のみです。

送信レベルについての注意

加入電話回線を使用する場合、送信レベルは工場出荷時の設定から変更 する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場 合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整は、認 定された工事担任者以外が行うことは法律で禁じられていますので、送 信レベルの調整については、当社指定のサービス窓口にお問い合わせく ださい。

当社指定のサービス窓口の電話番号、受付時間については、『メンテナン ス&サポートのご案内』『NEC PC あんしんサポートガイド』をご覧くだ さい。

通信するときの注意

- キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がか かってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・FAXモデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号に合わせた調整が必要です(付録「ATコマンド(P.138))。 加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは電話装置メーカや保守業者、第1種通信事業者(NTTなど)に確認してください。
- 本体にアース線を接続していない場合や、回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できないことや、接続しにくい場合があります。

- ・FAXモデムボードに接続できる電話機は2線式の回線用のみです。電話 機の種類によっては動作しない機種がありますので注意してください。また、電話機用モジュラーコネクタに接続されている外付け電話機 をパソコン本体から離れたところに設置している場合は、送信/受信の 際に外付け電話機が使用されていないことを確認してください。
- データ通信を行う場合、フロー制御はハードウェア(RTS/CTS)(工場 出荷時の設定)に設定してください。それ以外に設定するとデータ抜け が生じる可能性があります。
- FAXを送信する相手が音声応答機能付きのFAXの場合、相手からの音 声の内容によってはFAXの送信ができなくなることがあります。この 場合は、外付け電話機で相手からの音声が終わったのを確認してから 送信を始めてください。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでFAXの通信ができない ことがあります。この場合は通信速度を9600bps以下にしてください。
- 海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。
- K56flexおよびITU-T V.90の最大受信速度56000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。

Mate NXマネジメント機能

本機は、システム管理者が効率よく本機をマネジメントするための運用 管理、セキュリティ、障害管理、資源管理および遠隔操作・保守を行うため の機能を備えています。

マネジメント機能

システム管理者が、効率よくパソコンをマネジメントするためには、次の ような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

- ・メモリやPCIボードなどパソコンのハードウェア構成を変更させない ようにする。
- 一般のユーザが、Windowsのシステムに影響のあるファイルを変更・削除したり、アプリケーションソフトをインストールできないようにする。
- 機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウィルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブやCD-ROMドライブを使用できないようにする(ロックする)。
- ソフトウェアのバージョンアップのために、必要なパソコンのハード ウェア構成情報(メモリ容量、ハードディスクの空き容量など)、ソフト ウェア構成情報を管理する。
- ハードウェアに異常が発生したことを一般ユーザやシステム管理者に 通知する。
- システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを 遠隔操作できる。

本機には、このような手段・機能を利用するために、次のような機能を備 えています。

運用管理機能

クライアントモニタリング

「DMITOOL」により、離れたところにあるマシンから本機の状態を知る ことができます。

資源管理 本機のメモリ容量、PCIスロットの使用状況などのハードウェア構成 およびインストールされているソフトウェアについての情報が得られ ます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることが できます。

参照 「活用ガイド ソフトウェア編」PART1 アプリケーションの概要と削除/追 加」の「DMITOOL」

状態監視

障害管理機能が異常値を検出すると、本機の状態監視アイコンやポッ プアップメッセージにより異常を通知し、パックアップツールの連携 操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状 態を知ることができます。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追 加」の「DMITOOL」

リモートコントロール

参照 「活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追 加」の「pcANYWHERE32 EX (2)

本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ、ファイル転送、ア プリケーションのインストール、アプリケーションの実行などの操作 (1)を離れたところにあるシステム管理者のマシンから、本機を操作す ることができます。その際にはシステム管理者のマシンに下記の DMITOOL(別売)または pcANYWHERE (Symantec社製)が必要です。

製品名:DMITOOL(Ver6.1)(pcANYWHERE32EX コンプリート版付) 製品型番:PS-NX9217-C3

なお、商品の最新情報は、インターネットのホームページ 98Information」 の「ソフトウェア」で提供しています。次のアドレスにアクセスしてくだ さい。

http://www.nec.co.jp/98/

- 1 アプリケーションによっては、できないものがあります。
- 2 MA30H/Lには添付されていません。

ネットワークブート

別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0により、以下の操作を管理者側の パソコンから複数のクライアントPCに対して一括でリモート操作する ことができます。なお、機種によっては、この機能を利用できない場合が あります。

- ・ OSのセットアップ
- BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)
- ・ BIOS設定変更
- 参照 PART2 システム設定」の BIOSセットアップメニューを使う(P.90)

リモートパワーオン機能 Remote Power On機能)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。

本体およびLANボードがリモートパワーオン機能に対応しているシステ ムでは、本体の電源が切れているときも、リモートパワーオン用の専用コ ントローラは通電されています。管理パソコンはDMITOOLからのリ モートパワーオンのコマンド指示を受けると、パワーオンを指示する特 殊なパケットを離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケッ トを離れたところにあるパソコンの専用コントローラが受信すると、専 用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたとこ ろにある管理パソコンから、LAN接続された本機の電源を入れることが できます。

リモートパワーオン機能を利用するためには、パワーオンメッセージを 発信するパソコンにはDMITOOLの設定が、パワーオンメッセージを受 信するパソコンにはBIOSの設定が必要です。

参照
 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「DMITOOL」
 「PART2 システム設定」の「セキュリティの設定」(P.102)

- ぐチェック パ・リモートパワーオン機能はACPIモードでは使用できません。APMモードでのみ使用できます。
 - ・前回のシステム終了が正常に行われなかった場合、リモートパワーオン機能にて電源を入れることはできません。一度電源スイッチを押して、Windows 98を起動させ、再度、正常な方法で電源を切ってください。

MA30H/Lには添付されていません。

 参照
 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加 Jの「Timer-NX」

プリプートマネジメント(Preboot Management)

別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0および別売のESMPRO/ PrebootManager Ver1.0により、電源を入れてからWindowsが起動するま での間の障害を監視します。また、管理者PCからリモートでクライアン トPCのBIOS設定値を変更できるので、Windows起動前のクライアント PCに対するリモートメンテナンスが可能です。なお、機種によっては、こ の機能を利用できない場合があります。

セキュリティ機能

BIOS LOCK

BIOSレベルで本機の使用者を限定し、本機の起動を制限します。これにより、コンピュータウイルスやデータ改ざんなどからパソコンを守ります。

BIOS LOCKには、次の2つの方法があります。

パスワードを設定する

スーパバイザパスワード/ユーザパスワードを設定することで、本 機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することが できます。BIOSセットアップメニューでそれぞれのパスワードを設 定し、「起動時のパスワード」を「使用する」に設定してください。

参照/「PART2 システム設定」の セキュリティの設定(P.102)

スマートカードを利用する 別売のスマートカードリーダ/ライタ(PK-SM001)とスマートカー ド発行ツール(PK-SM002)、スマートカード(PK-SM003)を利用する ことで、個人認証をすることができます。なお、機種によっては、この 機能を利用できない場合があります。

- 参照 スマートカード発行ツール(PK-SM002)に添付のマニュアル
- チェック: スーパパイザパスワード、ユーザパスワードが設定されているか、もしくは本 機にスマートカードリーダが接続され、BIOSセットアップメニューの「セ キュリティ」の「起動時のパスワード」が「使用する」になっている場合、管理者 側のパソコンからリモートパワーオン機能で本機を起動するためには、BIOS セットアップメニューの「セキュリティ」の「ネットワーク起動時の設定」の 「BIOS LOCK」を「使用しない」にしなければなりません。

メモ

本機に添付されているCyberTrio-NXを使用することで、使用できるアプ リケーションやシステムに影響を与える動作を制限することができま す。詳しくは『活用ガイド ソフトウェア編』 PART1 アプリケーション の概要と削除/追加」の「CyberTrio-NX」をご覧ください。 1/0**Dック**

1/0ロックは、外部とのデータ交換の手段である1/C(フロッピーディスク ドライブ、CD-ROM ドライブ、シリアルポート、パラレルポート)を利用で きないようにする機能です。 この機能を利用することで、部外者のデータアクセスを防止したり、シス テムに影響を及ぼすアプリケーションソフトをインストールすることを 防止することができます。

参照/「PART2 システム設定」I/Oロック(P.105)

セキュリティロック

セキュリティロックを使用することで、本体カバーをロックし、本体の ハードウェア構成の変更や内蔵機器の盗難防止、パスワードの解除防止 に役立てることができます。

また、市販のワイヤーやチェーンを併用することで、本体の盗難防止にも 役立てることができます。

セキュリティロックには、モデルにより機構・形状が次のように異なりま す。

MA45D/M, MA35D/M

MA45D/S, MA40D/S, MA35D/S

セキュリティロックは、筐体電子ロックを採用しています。筐体電子ロッ クをロック状態にすることで本体カバーがロックされます。また、セキュ リティロックに市販のワイヤーかまたはチェーンなどを取り付けること ができます。電子ロックのロック/解除方法については「PART2 システ ム設定」の「セキュリティの設定(P.102)をご覧ください。

▼チェック / セキュリティロックにワイヤーまたはチェーンを取り付ける際には、筐体電 子ロックをロック状態にしてから取り付けてください。また、取り付けるワイ ヤーまたはチェーンは、下のイラストのように単体で開放可能なものをご利 用ください。この注意事項を守っていただかないと、万一本機に異常などが起 きたときや、パスワードを忘れたときなどに、ワイヤーまたはチェーンを取り 外せなくなることがあります。





MA36H/S, MA33H/S, MA30H/S

MA45D/C、MA40D/C、MA35D/C、MA36H/C、MA30H/C、MA30H/L

セキュリティロックには、筐体ロックを採用しています。筐体ロックは Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応してお り、別途購入していただく必要があります。入手方法については、次の国 内総販売代理店にお問い合わせください。 日本ボラロイド株式会社電子映像営業課 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目2番地2号第30森ビル

> TEL: 03-3438-8879 FAX: 03-5473-1630

ルーフカバーオープン検知(MA30H/Lは除く)

カバーセンサにより、ルーフカバーの開閉を検知します。開閉が検知された場合は、DMITOOLにより通知されます。メモリ、ハードディスクドライブが盗難されていないか、スーパーバイザーパスワード・ユーザーパスワードが解除されていないか、データの改ざん、コンピュータウイルスの侵入がないか調査してください。

参照 「活用ガイド ソフトウェア編」「PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「DMITOOL」

ウイルス検出・駆除

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うには「Virus Scan」 を使用します。

参照
『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追
加」の「Virus Scan」

エンドユーザ管理

エンドユーザの特定のアプリケーションを制限する「CyberTrio-NX」を利用できます。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追 加」の「CyberTrio-NX」

障害管理機能

本機には、次のような障害管理機能があり、異常を検出すると、 DMITOOLの状態監視機能へ異常を通知します。(機種により機能は異な ります)

- SMART機能 ハードディスクドライブの異常を監視します。標準装備されている ハードディスクドライブは、S.M.A.R.T(Self Monitoring Analysis and Reporting Technology)に対応しています。
- ・ 筐体内温度、電圧、CPU/電源ファン監視機能
 本機内部の温度、本機内部で使用されているさまざまな電圧、電源ファンやCPU冷却用のファンの回転数を監視します。
- ECC(Error Correcting Code)機能
 メモリエラーを自動的に検出/訂正を行います。
- ・ ソフトウェアパワーOFF機能
 不用意に電源を切ってしまうことにより生じるファイルの破壊を防止します。
- OFF state Alert機能
 本機の電源が切れている状態での筐体の開閉、CPU/LANケーブル抜け
 等の異常を検出し、LANで接続された他のパソコンに通知します。



ヘルプの表示方法

ここではヘルプの表示方法について説明します。Windows 98のヘルプの 詳細は『Microsoft_® Windows_® 98ファーストステップガイド』第1章 はじめに」の「情報の探し方」をご覧ください。

特定の操作手順についてのヘルプ

目次またはキーワードを入力して操作手順を探す

- 1 「スタート」ボタン 「ヘルプ」をクリック
- 2 ヘルプウィンドウ内の 🌨 または 犯 をダブルクリック

\infty をダブルクリックすると、さらに細かな項目が表示されます。

をダブルクリックすると、項目の内容を説明する画面が表示 されます。

設定項目のヘルプ(画面に表示されている項目についてのヘルプ)

設定方法が分からない場合に、ヘルプ画面を表示してその項目の説明を 読むことができます。

設定項目に関する説明を表示する

- **1** ダイアログボックスのタイトルバーにある
 ? アイコンをクリック カーソルが
 ? になります。
- 2 説明が必要な項目をクリック

メモ

説明が必要な項目を選択して【F1】を押しても同様の画面が表示されます。



システム設定

この章では、BIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

この章の内容

BIOSセットアップメニューについて	
ハードウェア環境の設定	
セキュリティの設定	102
省電力の設定	107
起動の設定	110
BIOS セットアップメニューについて

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵 されています。

BIOSセットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

- ・ ハードウェア環境の確認と変更
- ・セキュリティの設定
- ・省電力の設定
- ・起動の設定

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

1 電源を入れた直後に表示される「NEC」ロゴの画面で「F2: セットアップを起動します、F12:ネットワークブートしま す。」と表示されたら【F2】を押す 以下の画面が表示されます。

PhoenixBIOS セットアップユーティリティ			
メイン 詳細 セキュリ	ティ 省電力管理 起動	終了] メニューバー
システム時刻:	[hh:mm:ss]	項目ヘルプ	1
システム日付:	[yy:mm:dd]	<tab>+-、<shift-< th=""><th></th></shift-<></tab>	
言語:	[日本語 (JP)]	Tab> +- 、 <enter></enter>	
フロッピィディスクA:	[1.44/1.25Mb3.5"]	キーは、項目を選	
フロッピィディスクB:	[使用しない]	択します。	
▶ プライマリマスタ	$[\times \times \times \times MB]$		
▶ プライマリスレープ	[なし]		パラメータ
▶ セカンダリマスタ	[CD-ROM]		
▶ セカンダリスレープ	[なし]		
▶ キーボード機能			
起動時の自己診断画面	[使用しない]		
システムメモリ	640KB		
拡張メモリ	× × KB		
BIOS リビジョン	* * * * * * * *		
F1 ヘルプ 項目の Esc 終了 メニュー	D 選択 - / + 値の変 -の選択 Enter ▶サブメニ	更 F9 デフォルトの設定 ューの選択 F10 保存して終了	キーステータスパー

BIOSセットアップメニューの終了

- 1 【F10】を押す
- 2 セットアップ確認のダイアログボックスが表示されるので、 「はい」を選択して【Enter】を押す 設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

また、メニューバーの「終了」でもBIOSセットアップメニューを終了する ことができます。

終了

BIOSセットアップメニューの終了とシステム設定の読み込み/保存を行います。

変更を保存して終了する システムの設定を終了して、変更を保存します。

変更を保存せずに終了する 設定値を保存せずにBIOSセットアップメニューを終了します。

デフォルト値をロードする

すべての設定値にデフォルト値を書き込みます。なお、ここでの「デ フォルト値」は、工場出荷時の値ではありません。

デフォルト値をロードするときの注意

「デフォルト値」は、工場出荷時の設定値ではありません。工場出荷時の設 定値に戻すには、デフォルト値をロードした後に、ご使用のモデルに合わ せて設定を変更する必要があります。必ず、「工場出荷時の設定値に戻す」 (P.92)へ進み、手順に従ってください。

変更を取り消す

すべての設定項目に対して変更前の値を読み込みます。

変更を保存する

設定値を保存します。

● チェック パメニュー項目を保存せずに終了したい場合は、以下の操作を行ってください。

- 1 メニューバーの「終了」でで変更を保存せずに終了する」を選択し、[Enter]を押す
- 2 「設定が保存されていません!保存してから終了しますか?」の メッセージが表示されるのでいいえ」を選択し、[Enter]を押す

工場出荷時の設定値に戻す

BIOSセットアップメニューの内容を、工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。

操作方法

- 1 電源を入れる
- 2 「NEC」ロゴの画面で「F2:セットアップを起動します、F12: ネットワークブートします。」と表示されたら【F2】を押す BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 3 【F9】を押す 「セットアップ確認」のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「はい」を選択する デフォルト値を読み込みます。
- 5 フロッピーディスクドライブが標準で搭載されているモデル をご使用の場合は、手順7へ進む スーパーディスクドライブ搭載モデルをご使用の場合は、メ ニューバーの「メイン」「フロッピーディスクA」を「使用しな い」に設定する
- 6 メニューバーの「詳細」「周辺機器設定」の「フロッピーコント ローラ」を「使用しない」に設定する

- 7 USB接続のキーボードをご使用の場合は、手順8へ進む PS/2接続のキーボードをご使用の場合は、メニューバーの「メ イン」「キーボード機能」「USBレガシー機能」を「使用しな い」に設定する
- **8**【F10】を押す
- 9 「はい」を選択する 設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

ハードウェア環境の設定

メインの設定

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、スーパバイザパス ワードで起動した場合のみ変更可能です。

システム時刻() 現在の時刻を「時:分:秒」で入力します。

システム日付() 日付を「年/月/日」で入力します。

言語()

BIOSで使用する言語を設定します。日本語または英語を選択できます。工場出荷時は「日本語」に設定されています。

フロッピーディスクA

フロッピーディスクドライブのモードを選択します。

設定項目	設定内容	
フロッピーディスクA	使用しない	
	360KB	5.25"
	1.2MB	5.25"
	720KB	3.5"
	1.44/1.25MB	3.5"
	2.88MB	3.5"

スーパーディスクドライブが標準で搭載されているモデルば 使用しな い」に設定してください。

フロッピーディスクドライブが標準で搭載されているモデルは「1.44/ 1.25MB 3.5"」に設定してください。 フロッピーディスクB

フロッピーディスクAの設定と同じです。工場出荷時ば、使用しない」に 設定されています。本項目が表示されない機種もあります。

プライマリマスタ

現在接続されているIDEデバイス(工場出荷時に内蔵されているハー ドディスクドライブ)が表示されます。この項目にカーソルを合わせ 【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

▼チェック / 本項目の設定は変更しないでください。

設定項目	設定内容	説明
タイプ	自動	BIOS が自動的にシリンダ 、
		ヘッド、セクタを設定します。
32 Ľット I/O	使用しない/使用する	32 ビット IDE データ転送を
		使用するかどうかを設定し
		ます。

プライマリスレーブ

プライマリマスタの設定と同様です。

3.5インチベイに増設されるIDE機器の設定画面となります。

セカンダリマスタ

プライマリマスタの設定と同様です。

CD-ROM ドライブ、またはPDドライブの設定画面となります。

セカンダリスレーブ

プライマリマスタの設定と同様です。

5インチベイに増設されるIDE機器の設定画面となります。スーパー ディスクドライブが搭載されているモデルは、スーパーディスクドラ イブの設定画面となります。 キーボード機能

キーボード機能を設定します。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を 押すとサブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
Num lock	自動/オン/オフ	起動時にNum lockをオン
		にするかどうかを設定しま
		す。
キークリック	使用しない/使用する	キークリック音を使用する
		かどうかを設定します。
キーボード自動	30/秒、26.7/秒、21.8/秒	キーリピート間隔を設定しま
リピート間隔	18.5/ 秒、 13.3/ 秒、 10/ 秒	す。
	6/秒、2/秒	
キーボード自動	1/4 秒、 1/2 秒、 3/4 秒	キーリピートが開始されるま
リピート待ち時間	1 秒	での待ち時間を設定します。
USB レガシー機能	使用する/使用しない	[使用する]を選択すると
		USB レガシー機能を有効に
		します。 PS/2 キーボードモ
		デルでは「使用しない」に
		設定されています。

起動時の自己診断画面()

起動時に自己診断画面を表示するかどうかを設定します。「使用しない」に設定すると起動時間が短くなります。工場出荷時ば「使用しない」 に設定されています。

システムメモリ

搭載されているシステムメモリ容量を表示します。

拡張メモリ

搭載されている拡張メモリを表示します。

×E

システムメモリと拡張メモリを合計した値がメモリ(メインRAM)の容量 となります。

BIOSリビジョン 搭載されているBIOSのリビジョンを表示します。

詳細の設定

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、スーパバイザパス ワードで起動した場合のみ変更可能です。

プラグ&プレイO/S

プラグ&プレイ対応のオペレーティングシステムを使用している場合 には、「はい」を選択します。工場出荷時ばはい」に設定されています。 Windows NT 4.0をご利用の場合は「いいえ」に設定してください。

設定値の初期化

PCIボードなどのプラグ&プレイ機器の設定値のみを初期化したい場合には、「する」を選択します。工場出荷時ばしない」に設定されています。

PCI設定

各PCIデバイスの割込み番号(IRQ)を設定します。この項目にカーソル を合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
PCI IRQ Line 1	使用しない/自動選択/	PCI IRQ line 1 で使用す
	3/4/5/7/9/10/11/12/	るIRQ 番号を設定します。
	14/15	
PCI IRQ Line 2	使用しない/自動選択/	PCI IRQ line 2 で使用す
	3/4/5/7/9/10/11/12/	るIRQ 番号を設定します。
	14/15	
PCI IRQ Line 3	使用しない/自動選択/	PCI IRQ line 3 で使用す
	3/4/5/7/9/10/11/12/	るIRQ 番号を設定します。
	14/15	
PCI IRQ Line 4	使用しない/自動選択/	PCI IRQ line 4 で使用す
	3/4/5/7/9/10/11/12/	るIRQ 番号を設定します。
	14/15	

PCI設定の設定項目と本機のPCIスロットは、次のように対応しています。

PCI設定の設定項目	ミニタワー型	デスクトップ型	省スペース型
PCI IRQ Line 1	PCI スロット #1、	PCI スロット #1	LAN ボード /FAX
	#5		モデムボード専用
			スロット
PCI IRQ Line 2	PCI スロット #2	PCI スロット #2	PCI スロット #1
PCI IRQ Line 3	PCI スロット #3	PCI スロット #3	PCI スロット #2
PCI IRQ Line 4	PCI スロット #4	PCI スロット #4	

キャッシュメモリ

本項目の設定は変更しないでください。

周辺機器設定

各種周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
シリアルポートA	使用しない	シリアルポートAは使用でき
(シリアルコネクタ		ません。
またはシリアルコ	使用する	ユーザが1/0ベースアドレ
ネクタ 1)		スと割込み番号を設定す
		ることがで さ ます。
	自動	BIOS が I/O ベースアドレス
		と割込み番号を自動的に
		設定します。
	PnP OS	プラグ&プレイに対応した
		OSが1/Oペースアドレスと
		割込み番号を自動的に設
		定します。
シリアルポートB	シリアルポートAと同様です。	工場出荷時は「使用しな
(シリアルコネクタ2)		い」に設定されています。
		本項目がない機種もありま
		す。Windows NTをご利
		用の場合は「使用する」に
		設定してください。

設定項目	設定内容	説明
パラレルポート	使用しない	パラレルポートは使用でき
(パラレルコネクタ)		ません。
	使用する	ユーザがパラレルポートの
		モード、1/0ペースアドレス、
		割込み番号を設定するこ
		とができます。
	自動	BIOS が自動的にパラレル
		ポートの設定を行います。
	PnP OS	プラグ&プレイに対応した
		OS が自動的にパラレルポ
		ートの設定を行います。
モード	出力のみ/双方向/ECP	パラレルポートにモードを設
		定します。
フロッピーコント	使用しない/使用する/自動	フロッピーディスクドライブを
ローラ		使用する場合は「使用する」
		に設定します。スーパーデ
		ィスクドライブが標準で搭載
		されているモデルは「使用
		しない」に設定します。
1/0ペースアドレス	プライマリ/セカンダリ	オプションのフロッピーディ
		スクドライブの1/0ペースア
		ドレスを設定します。

大容量ディスクアクセスモード 本項目の設定は変更しないでください。

ローカルバスIDE アダプタ

内蔵用のIDEアダプタを使用するかどうかを設定します。工場出荷時 ば「両方」に設定されています。

ビデオ詳細設定

使用するビデオの設定を行います。

設定項目	設定内容	説明
グラフィックスア	4Mb/8Mb/16Mb/	AGP ビデオデバイスが使用
パーチャ	32Mb/64Mb/128Mb/	するグラフィックアパーチャ
	256Mb	サイズを設定します。
ビデオのプライマ	AGP/PCI	使用するビデオデバイスを
リ設定		選択します。PCIスロットに
		ビデオカードが増設されて
		いない場合は[PCI]に設
		定してもAGPが有効になり
		ます。

クイックブート

「使用する」に設定した場合、本機起動時の一部のテストをスキップします。システム起動時間が短縮されます。工場出荷時は「使用する」に設定されています。

サウンド

サウンドのリソースを設定します。この項目にカーソルを合わせ 【Enter】を押すとサプメニューの設定画面となります。本項目がない機 種もあります。

設定項目	設定内容	説明
サウンド	使用しない	サウンドを切り離します。
	使用する	サウンドが使用できます。

DMI**イベントログ**

起動時に起きたイベントログを参照できます。この項目にカーソルを 合わせて【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
イベント情報の	(設定項目はありません)	【Enter】を押すとDMIイ
表示		ベントログの内容を表示し
		ます。
イベントログのク	いいえ/はい	「はい」を選択すると、再
リア		起動後すべてのDMIイベ
		ントログをクリアします。
イベントログ	使用する/使用しない	「使用する」を選択すると
		DMI イベントログを記録し
		ます。
イベントログの既	はい/いいえ	【Enter 】を押し、「はい」を
読設定		選択すると表示されている
		ログは既読状態となります。

LANDesk(R)Service()

本体BIOSに標準搭載しているLANDeskService機能の設定を行いま す。工場出荷時は、使用する」に設定されています。本項目がない機種も あります。

 チェック
 LANDeskServiceを使用するには、管理者側のパソコンに別売のESMPRO/ ClientManager Ver3.0が必要です。

> Preboot Managemen() Preboot Management機能の設定を行います。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。

- デチェック! Preboot Management機能を使用するには、管理者側のパソコンに別売の ESMPRO/ClientManager Ver3.0およびESMPRO/PrebootManager Ver1.0 が必要です。
 - 参照 PART1 本体の構成各部 の Mate NX マネジメント機能 (P.80)



セキュリティの設定

セキュリティに関する各種設定を行います。

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、スーパバイザパス ワードで起動した場合のみ変更可能です。

スーパバイザパスワード

スーパバイザパスワードの設定状態を表示します。

設定項目	設定内容	説明
スーパバイザパスワード	設定	スーパバイザパスワードが設定さ
		れています。
	クリア	スーパバイザパスワードが設定さ
		れていません。

ユーザパスワード()

ユーザパスワードの設定状態を表示します。

設定項目	設定内容	説明
ユーザパスワード	設定	ユーザパスワードが設定されて
		います。
	クリア	ユーザパスワードが設定されて
		いません。

メモ

スーパバイザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限するための機能です。

スーパバイザパスワードの設定を行うとBIOSセットアップメニュー起動時、パスワードの入力画面となり設定されたスーパバイザパスワードを入力しない限りBIOSセットアップメニューの起動はできません。

ユーザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限し、 BIOSセットアップメニューで設定可能な項目も制限するための機能で す。また、「起動時のパスワード」を「使用する」にすることで本機の使用者 を制限することができます。 セキュリティモード

セキュリティモードを選択します。パスワードとスマートカードが選択できます。工場出荷時は「パスワード」に設定されています。

起動時のパスワード

システム起動時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。 リモートパワーオン機能を利用するときは、本項目を「使用しない」に 設定します。工場出荷時ば「使用しない」に設定されています。

ハードディスク起動セクタ

ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかの設定を行 います。

書き込み禁止にすると起動セクタをウィルスから保護します。工場出 荷時ば 通常動作」に設定されています。

フロッピーアクセス

「スーパパイザ」に設定するとスーパバイザ以外フロッピーディスクド ライブに対してアクセスできなくなります。ただし、スーパーディスク ドライブへのアクセスは制限できません。工場出荷時は「スーパパイ ザ」に設定されています。

ネットワーク起動時の設定

この項目にカーソルを合わせ、【Enter】を押すと、サブメニュー設定画 面となります。

設定項目	設定内容	説明
キーボード/マウス	使用する/使用しない	「使用する」を選択すると、
ロック		リモート(PME) 起動時に
		キーボード/マウスをロックし
		ます。
BIOS LOCK	使用する/使用しない	「使用しない」を選択すると、
		「起動時のパスワード」また
		は Smartcard が設定され
		ていてもリモート(PME)起
		動時にパスワード入力を要
		求しません。この項目は、
		パスワードを設定した場合、
		もしくはスマートカードを接
		続した場合に表示されます。

デチェック
 たってのリモート(PME: プリブートマネージメント)起動時とは、管理者側のパソコンからクライアントPCをリモートにより起動することを指します。この場合、管理者側のパソコンに別売のESMPRO/ClientManager ver3.0およびESMPRO/PrebootManager ver1.0が必要です。

ウイルスチェック警告

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングば使用しない」、「毎日」、「毎週、月曜日)」、「毎月(1日)」の中から選択します。工場 出荷時ば「使用しない」に設定されています。

システムのバックアップ警告

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングば使用しない」、「毎日」、「毎週(月曜日)」、「毎月(1日)」の中から選択します。工場 出荷時ば使用しない」に設定されています。大切なデータがある場合 には、定期的にバックアップをとれるよう、設定を変更することをおす すめします。

本体カバーのロック

セキュリティロックに電子ロックを採用している機種で、「使用する」 を選択すると、本体のカバーを取り外すことができないようにロック をかけます。本項目が表示されない機種もあります。工場出荷時ば使 用しない」に設定されています。

参照「PART1 本体の構成各部」Mate NXマネジメント機能」の「セキュリティ機 能(P.84)

カバーオープン時の起動制御

「使用する」を選択すると、本体のカバーが取り外された状態では起動できなくなります。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。

1/0ロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用しないように
 する(ロックする)機能です。
 BIOSセットアップメニューで以下の設定を行うことによってI/Oロック
 を有効にすることができます。

- ・FDDインターフェースのロック方法 フロッピーディスクドライブを使用できなくします。
 [メイン][フロッピーディスクA][使用しない]
 [詳細][周辺機器設定][フロッピーコントローラ][使用しない]
- ・ IDEインターフェースのロック方法 プライマリマスタスレープ 工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブや3.5インチベ イに増設されるIDE機器を使用できなくします。
 [詳細] [ローカルバスIDEアダプタ] [使用しない]もしくは プラ イマリ]

セカンダリマスタスレーブ CD-ROMドライブまたはPDドライブ、またはスーパーディスクドライ ブを使用できなくします。 [詳細] [ローカルバスIDEアダプタ] [使用しない]もしくは[セカ ンダリ]

- ・シリアルポートAのロック方法
 シリアルコネクタ、またはシリアルコネクタ1を使用できなくします。
 [詳細] [周辺機器設定] [シリアルポートA] [使用しない]
- ・シリアルポートBのロック方法
 シリアルコネクタ2を使用できなくします。本項目はモデルにより表示
 されません。
 [詳細] [周辺機器設定] [シリアルポートB] [使用しない]
- パラレルポートのロック方法
 パラレルコネクタを使用できなくします。
 [詳細][周辺機器設定][パラレルポート][使用しない]

パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場合)

本機では、BIOSセットアップメニューの使用者をスーパバイザパスワード、ユーザパスワードの設定、またはスマートカードリーダの接続により 制限することができます(BIOS LOCK)。もし設定したこれらのパスワードを忘れてしまったり、キーとなるスマートカードをなくしてしまった 場合のBIOS LOCKの解除方法については、『ハードウェア拡張ガイド』 「PART5 付録」の「ストラップスイッチの設定」をご覧ください。

チェック // 無断でパスワードを解除することを防ぐために、セキュリティロックを使用することをおすすめします。(P.85)





省電力管理

本機の省電力管理設定を行います。

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、スーパバイザパス ワードで起動した場合のみ変更可能です。

省電力()

パワーマネジメントモードを選択します。モードを選択することに よって本機のパワーマネジメント設定を変更します。

設定項目	設定内容	説明
省電力	使用しない	パワーマネジメント機能を
		停止します。
	カスタマイズ	自動サスペンドおよびハー
		ドディスクタイムアウト時間を
		ユーザ自身で選択できます。
	最大省電力	消費電力を最小限におさ
		えることができます。このと
		きのタイムアウト時間は以
		下の通りです。
		自動サスペンドタイムアウト:5分
		ハードディスクタイムアウト:1分
	性能優先	電力をより多く消費します
		が、性能は最大限に発揮し
		ます。このときのタイムアウ
		ト時間は以下の通りです。
		自動サスペンドタイムアウト:60分
		ハードディスクタイムアウト: 15分

自動サスペンドタイムアウト

システムが自動的にスタンバイ(サスペンド)状態に移行するまでの時間を設定します。工場出荷時は、オフ」に設定されています。

ハードディスクタイムアウト()

ハードディスクの電源が切れるまでのハードディスクの非アクティブ 状態の時間を設定します。工場出荷時ば使用しない」に設定されてい ます。

スリープボタン()

「オン」に設定すると、スリープボタンが有効になります。工場出荷時は 「オン」に設定されています。

入力装置によるレジューム()

「オン」に設定すると入力デバイスによるレジュームを有効にします。 工場出荷時ば オン」に設定されています。Windows NT 4.0をご利用の 場合ば オフ」に設定してください。

モデムリングによるレジューム()

「オン」に設定すると、モデムが呼出し信号を受信したときに、本機をサ スペンド状態から復帰します。なお、この項目は本機でWindows NTを ご利用の場合は使用できません。工場出荷時ば、オン」に設定されてい ます。

時刻指定によるレジューム()

「オン」に設定すると、レジューム時刻設定時間で本機をサスペンド状態から復帰します。工場出荷時は「オフ」に設定されています。

レジューム時刻() レジュームする時刻を設定します。

IDEデバイス0監視()

「使用する」に設定するとIDEデバイス0(プライマリマスタ、ハード ディスクドライブ)が動作中にサスペンド状態へ遷移しないように監 視します。

IDEデバイス1監視()

「使用する」に設定するとIDEデバイス1(プライマリスレーブ、3.5イン チベイに増設されるIDE機器)が動作中にサスペンド状態へ遷移しな いように監視します。

IDE**デバイス2監視()**

「使用する」に設定するとIDEデバイス2(セカンダリマスタ、CD-ROM ドライブ」が動作中にサスペンド状態へ遷移しないように監視します。 IDEデバイス3監視()

「使用する」に設定するとIDEデバイス3(セカンダリスレーブ、スー パーディスクドライブが搭載されているモデルはスーパーディスクド ライブ、または5インチベイに増設されるIDE機器」が動作中にサスペ ンド状態へ遷移しないように監視します。

PCI**バス監視()**

「使用する」に設定するとPCIバスが動作中にサスペンド状態へ遷移しないように監視します。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。

設定項目	設定内容	説明
バスの使用頻度	0~255	256 クロックサイクル期間に
		検出されるデータフェーズ
		数を設定します。0から255
		までの値が設定で さ ます。
バスの占有時間率	0~100	スタンバイタイマをリロードす
		るためのバスの占有時間
		率を設定します。 0 から 100
		までの値が設定で さ ます。



電源の設定

AC電源投入時の電源状態や、PCIデバイスにより電源を入れるための設定を行います。

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、スーパバイザパス ワードで起動した場合のみ変更可能です。

AC投入時の電源状態()

AC電源(AC100V)が失われ、再投入されたとき、どの状態に復旧するかを設定します。

設定項目	設定内容	説明
AC 投入時の電	オフ	AC投入時に電源がオン(電
源状態		源は入らない)しない。
	オン	AC投入時に電源がオン(電
		源が入る)する。
	自動	AC 電源が失われたときの
		状態に戻します。電源が入
		っている状態で、AC電源
		が切れた場合には電源が
		入ります。電源が切れてい
		る状態でAC電源が切れた
		場合には電源は入りませ
		h.

PCIデバイスによる電源オン()

PCIデバイス(LANカード等)による電源オンを有効にします。

リモートパワーオン機能を利用するには、本項目をする」に設定します。工場出荷時は「しない」に設定されています。

メモ

電源オンとは、電源を入れることです。 電源オフとは、電源を切ることです。

起動順位の設定

起動するデバイスを優先順に従ってリスト表示します。本機を起動する デバイス(ブートデバイスともいいます)を設定します。

設定項目	設定内容	説明
起動順位	取めし可能デバイフ	本機を起動するデバイスの
1	取がしり起うパイス	順番を決めます。起動順
2	ハードディスク	位1に指定したデバイスか
3	ATAPI CD-ROM	ら順番に起動されます。
4	ネットワークブート	
5	LANDesk(R)Service	

起動するデバイスを変更するには【 】 陸使用して変更したいデバイ スにカーソルを合わせます。【+】を押すとリストの上側に移動し、【-】を 押すとリストの下側に移動します。

起動する装置は次の通りです。

- ・ハードディスク ……… 工場出荷時はプライマリマスタのハード ディスクドライブ
- ATAPI CD-ROM CD-ROM
- ・ネットワークブート ... LANボード
- ・取外し可能デバイス … 内蔵フロッピーディスクドライプまたは スーパーディスクドライブ
- ・ LANDesk(R)Service ... LANボード

複数のデバイスが存在する「ハードディスク」取り外し可能なデバイス」 についてはさらにその中で起動する順位を設定することができます。

ハードディスク()

本機は、起動順位1のハードディスクドライブからオペレーティングシ ステムを起動します。本機は、オペレーティングシステムを検出するま で、表示されたリストの順序(1、2...)に従い検索を続けます。

取外し可能なデバイス() この項目は、取り外し可能なデバイスのうち、内蔵フロッピーディスク ドライブ、スーパーディスクドライブについて設定します。 オペレーティングシステムは、取り外し可能なデバイスにドライブ名 を割り当てます。 取外し可能なフォーマット(この項目はスーパーディスクドライブを 装備している装置のみ)())

取外し可能なドライブに挿入されているメディアのフォーマットが、 ハードディスクか、取り外し可能デバイスかを設定します。

セットアップ情報画面

「使用する」に設定すると起動時にシステム設定状況を表示します。工 場出荷時は「使用しない」に設定されています。



この章の内容

機能一覧	
AT コマンド	
割り込みレベル一覧	
DMA チャネルの割り当て	
本機のお手入れ	155



型番の読み方と機能仕様

PC-MA

に入る英数字とその意味は次の通りです。

CPUのクロック周波数を表しています。

45:450MHz	40:400MHz	36:366MHz
35:350MHz	33:333MHz	30:300A MHz

CPUの種類を表しています。

D:Pentium[®] IIプロセッサ H:Celeron™プロセッサ

本体の型を表しています。

S:デスクトップ型

CまたはL:省スペース型

M:ミニタワー型

ディスプレイのあるなし、または種類を表しています。

- 5:15インチCRTディスプレイ(DV15A2)
- 7:17**インチ**CRTディスプレイ(DV17B2)
- F: 15インチ液晶ディスプレイ(F15T1)
- L: 15インチ液晶ディスプレイ(F15T2W)
- G: 15インチ広視野角TFT液晶ディスプレイ(F15S1W)
- H: 14.1インチ液晶ディスプレイ(F14T3W)
- J: 14.1インチ広視野角TFT液晶ディスプレイ(F14S1W)
- E: 18インチ広視野角TFT液晶ディスプレイ(F18S1W)
- Z:なし

選択アプリケーションのあるなし、または種類を表しています。 T:アプリケーションなし V:Word & Excel W:一太郎9 & 1-2-3 U:一太郎9パック N:ESMPROクライアントライセンス 3.5インチベイに標準実装されているファイルの種類と、キーボードの 種類を表しています。

H: フロッピーディスクドライブ+USB小型キーボード L: スーパーディスクドライブ+USB109キーボード M: フロッピーディスクドライブ+USB109キーボード S: スーパーディスクドライブ+USB98配列キーボード T: フロッピーディスクドライブ+PS/2 109キーボード U: スーパーディスクドライブ+PS/2 109キーボード V: フロッピーディスクドライブ+USB98配列キーボード W: スーパーディスクドライブ+USB98配列キーボード

メモリの容量とネットワークボードの種類を表しています。

A:32MB+LAN**ボード** B:64MB+LAN**ボード** T:32MB + FAX モデムボード U:64MB + FAX モデムボード

V:96MB+FAX**モデムボード**

C:96MB + LAN**ボード** D:128MB + LAN**ボード**

ハードディスクの容量を表しています。

3:3.2GB 4:4.3GB 6:6.4GB 8:8.4GB D:16.8GB

管理番号

上記 ~ の一部の変更により、型番の変更で表現できない場合のために使用しています。1、2、3と増えていきます。



3

付

急

仕様一覧

周

MA45D/M、MA35D/M本体機能仕樣

型番				PC-MA45DM 3 PC-MA35DM 3
型名				MA45D/M model 3 MA35D/M model 3
CPU				Pentiumell למשטיל (450MHz) Pentiumell למשטיל (350MHz)
	内蔵	キャッシュ	1,XEU	32KB
	シスラ	テムバス		100MHz
メモリ	セカン	ノドキャッ	シュメモリ	512KB(CPU内蔵)
	BIOS	ROM	Flash ROM)	512KB. プラグ&プレイ対応
	XI	RAM	,	ECC機能対応 最大768MB DIMMスロット×3(標準搭載されるメモリの容量・
				空きスロットはモデル構成により異なります)
	r=-	T RAM		4MB(SGRAM)
表示機能	ウィン	パウアク	セラレータ	STMicroelectronics社製RIVA128搭載(ビデオ/3Dアクセラレーション機能搭載)
	グラコ	フィックま	示	640×480 ドット 最大 1.677万色
				800 × 600 ドット 最大1,677万色
				1 024 x 768 ドット 晶大 1 677万色
				1.280×1.024ドット 最大32.768色
サウンド機能				YAMAHA社製YMF740搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、書子化8ビット
				/16 ビット、サンプリングレート 11 025KHz/22 05KHz/44 1KHz/48KHz)、全一
				■ 「「「」」」、「」」、「」」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「
				シンヤサイザー機能搭載
補助記憶装置	70,	パーディ	マスクドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1
	<u></u>	ドディスグ	パライプ	UltraATA対応 SMART機能対応 ハードディスクドライブの容量はモデル構成により異なります
		出荷時	<u>- 2 - 2</u> ソフト占有量	マプリケーションなしモデル・約700MB 一大郎モデル・約1030MB Wordモデル・
				約840MB 大郎981-2-3 98モデル:約960MB. FSMPROモデル:約700MB
	CD-F		イプ	
インタフェース	717	マンレイ	12	アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン
	シリフ	ブルコネク	79 JA791	最大11.5200bps, D-sub9ビン
			コネクタ2	最大11.5200bps、D-sub9ビン
	パラし	ノルコネ	79	D-sub25
	USB			2(本体正面×1、本体背面×1)
	サウン	ンド関連	入力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インビーダンス600、マイク感度-48db
				ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db
			出力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33)
				ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)
	通信	関連	LANボードの場合	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF
				state Alert 機能
		ľ	FAXモデムボードの場	合 電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ
		USB	09 キーボードの場 名	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
	入力 USB小型キーボードの場合		小型キーボードの場	合 キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
	関連 USB98配列キーボードの場合		8配列キーボードの場	合キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
	PS/2 109キーボードの場合		109キーボードの場	合 キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続
PCI ADyh	<u>ייי</u> שר			5[フルサイズ×4、ハーフサイズ×1(LANボードまたはFAXモデムボードで占有済)]
AGP スロット			1(ウィンドウアクセラレータボードで占有済)	
ファイルペイ	アイルペイ 3.5インチペイ		ſ	1(フロッピーディスクドライブで占有済)
	内蔵3.5インチベイ		የላጎ	2(ハードディスクドライブで1スロット占有済)
	512531			3(CD-ROMドライブで1スロット占有済)
カレンダ時計			電池によるバックアップ	

マネジメント機能	運用管理機能		デスクトップ管理ソフトウェア「DMITOOI	_」「pcANYWHERE32 EX」標準添付、
			ESMPROクライアントライセンス(モデル	構成により異なります)
	障害管	曽理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU	・電源ファン監視、ECC機能、OFF state
			Alert 機能	
	セキコ	Lリティ機能	スーパパイザパスワード、ユーザパスワー	ド、セキュリティロック(電子ロック)、ルー
			フカパーオープン検知	
環境条件	電源		AC100V ± 10%, 50/60Hz, V7hウェア/	ペワーオフ対応
	温湿度	度条件	10~35、20~80%(但し結露しないこと	:)
消費電力	本体材	票準構成時	約36W(最大約240W)	約35W(最大約240W)
	スタンパイ状態時		約 21W 以下	
	エネルギー消費効率		21W	
外形寸法	本体		462(H)×434(D)×192(W)mm	
		USB109 キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm	
	+ -	USB小型キーボードの場合	40(H)×178(D)×370(W)mm	
	ポード	USB98配列キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm	
		PS/2 109キーボードの場合	35(H)×169(D)×467(W)mm	-
重量	本体		約 13.5Kg	約 13.5Kg
		USB109 キーボードの場合	約1.2Kg	
	+ - USB小型キーボードの場合		約980g	
	ボード USB98配列キーボードの場合		約 1.2Kg	
		PS/2 109 キーボードの場合	約 1.1Kg	

MA45D/S本体機能仕樣

型番				PC-MA45DS 3
型名				MA45D/S model 3
CPU				Pentium _® II プロセッサ(450MHz)
	内蔵	キャッシュ	メモリ	32KB
	システムバス			100MHz
メモリ	セカン	パキャッ	ノュメモリ	512KB(CPU内蔵)
	BIOS	ROM(F	lash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応
	メイン	RAM		ECC機能対応 最大768MB DIMMスロット×3(標準搭載されるメモリの容量・
				空きスロットはモデル構成により異なります)
	ビデス	RAM		4MB(SGRAM)
表示機能	ウィン	ドウアク	zラレータ	STMicroelectronics社製RIVA128搭載(ビデオ/3Dアクセラレーション機能搭載)
	グラフ	イック表	7	640×480 ドット 最大 1,677万色
				800×600ドット 最大1,677万色
				1,024×768 ドット 最大 1,677万色
				1,280×1,024 ドット 最大 32,768色
サウンド機能				YAMAHA社製YMF740搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット
				/16ビット、サンプリングレート 11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二
				重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備、ウェープテーブル
				シンセサイザー機能搭載
補助記憶装置	フロッ	ピーディ	スクドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1
	ハート	・ディスク	ドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応 ハードディスクドライブの容量はモデル構成により異なります
	[出荷時と	ワト占有量	アプリケーションなしモデル:約700MB、一太郎モデル:約1030MB、Wordモデル:
				約840MB、一太郎9&1-2-3 98モデル:約960MB、ESMPROモデル:約700MB
	CD-F	ROM ドラ ・	げ	内蔵 最大32倍速(平均23倍速)
インタフェース	ディス	プレイ		アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン
	シリア	ノルコネク	9 コネクタ1	最大11,5200bps、D-sub9ピン
			コネクタ2	最大11,5200bps、D-sub9ビン
	バラレ	/ルコネク	9 9	D-sub25ピン
	USB			2(本体正面×1、本体背面×1)
	サウン	パ関連	入力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db
				ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インビーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db
			出力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33)
				ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)
	通信	関連 !	AN ボードの場合	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF
				state Alert 機能
		i i	AXモデムボードの場合	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ
	<u>۸</u>	USB1)9 キーボードの場合	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
	開演	USB小	型キーボードの場合	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
	関連 USB98配列キーボードの場合		配列キーボードの場合	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
	PS/2 109 キーボードの場合		09 キーボードの場合	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続
PCI スロット	F			4[フルサイズ×3、ハーフサイズ×1(LANボードまたはFAXモデムボードで占有済)]
AGP スロット			1(ウィンドウアクセラレータポードで占有済)	
ファイルペイ	ペイ 3.5インチペイ			2(フロッピーディスクドライブで1スロット占有済)
	内蔵3.5インチベイ		*ተ	1(ハードディスクドライブで占有済)
	5インチペイ			2(CD-ROM ドライブで1スロット占有済)
カレンダ時計				電池によるバックアップ

マネジメント機能	運用管理機能		デスクトップ管理ソフトウェア「DMITOOL」「pcANYWHERE32 EX」標準添付、
			ESMPROクライアントライセンス(モデル構成により異なります)
	障害管理機能		SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、ECC機能、OFF state
			Alert 機能
	セキュ	∟リティ機能	スーパパイザパスワード、ユーザパスワード、セキュリティロック(電子ロック), ルー
			フカパーオープン検知
環境条件	電源		AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応
	温湿度	度条件	10~35、20~80%(但し結露しないこと)
消費電力	本体材	癝準構成時	約35W(最大約170W)
	スタンパイ状態時		約 19W
	エネルギー消費効率		19W
外形寸法	本体		135(H)×419(D)×430(W)mm
		USB109 キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm
	+ -	USB小型キーボードの場合	40(H)×178(D)×370(W)mm
	ボード	USB98 配列キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm
		PS/2 109 キーボードの場合	35(H)×169(D)×467(W)mm
重量	本体		約 11.4Kg
		USB109 キーボードの場合	約 1.2Kg
	+ -	USB小型キーボードの場合	約 980g
	ボード	USB98配列キーボードの場合	約 1.2Kg
		PS/2 109 キーボードの場合	約 1.1Kg



MA40D/S、MA35D/S本体機能仕樣

型番				PC-MA40DS	3	PC-MA35DS	3
型名				MA40D/S model	3	MA35D/S model	3
CPU				Pentiumellプロセッサ(40	00MHz)	Pentium _® IIプロセッサ	(350MHz)
	内蔵キャッシュメモリ システムパス		メモリ	32KB			
				100MHz			
メモリ	セカンドキャッシュメモリ			512KB(CPU内蔵)			
	BIOS ROM(Flash ROM) メインRAM			512KB、プラグ&プレイ対応			
				ECC機能対応 最大768MB DIMMスロット×3(標準搭載されるメモリの容量・			
				空きスロットはモデル構成により異なります)			
	ビデス	RAM		4MB(SGRAM)			
表示機能	ウィン	ドウアク	セラレータ	STMicroelectronics社事	RIVA128搭載	(ビデオ /3D アクセラレー	ション機能搭載)
	グラフ	7ィック表	示	640×480 ドット	最大1,677万1	色	
				800×600 ドット 最大 1,677 万色			
				1,024×768 ドット	最大1,677万1	色	
				1,280×1,024 ドット	最大32,768色	3	
サウンド機能				YAMAHA社製YMF740打	皆載 PCM録	音再生機能内蔵(ステレ	す、量子化8ビット
				/16ビット、サンプリングレー	- - 11.025K	Hz/22.05KHz/44.1KH	z/48KHz)、全二
				重対応(モノラル、量子化)	3ビット時)、内戸	蔵モノラルスピーカ装備 、	ウェーブテーブル
				シンセサイザー機能搭載			
補助記憶装置	フロッ	ピーディ	スクドライブ	3.5インチフロッピーディス	クドライブ(3モ	ード対応) ×1	
	N-1	・ディスク	ドライブ	UltraATA 対応、 SMART機能対	対応 ハードディン	ヽクドライブの容量はモデル構	成により異なります
		出荷時	ソフト占有量	アプリケーションなしモデノ	レ:約 700MB、	ー太郎モデル:約1030M	B、Wordモデル:
				約840MB、一太郎9&1-2-3 98モデル:約960MB、ESMPROモデル:約700MB			
	CD-F	≀0Mドラ	イプ	内蔵 最大32倍速(平均2	23 倍速)		
インタフェース	ディス	、プレイ		マナログRGBセパレート信	号出力(75 ア	ナログインタフェース)、ミ	ニD-sub15ピン
	シリア	ルコネク	79 コネクタ1	最大11,5200bps、D-sub	<u>9ピン</u>		
			コネクタ 2	最大 11,5200bps、D-sub	ッピン		
	パラレ	/ルコネク	7 9	D-sub25ピン			
	USB		- I	2(本体正面×1、本体背面	×1)		
	サウン	ッド関連 入力		マイク入力:モノラル、ミニジャッ	7、供給電源2.5V、	マイク出力インビーダンス600	、マイク感度-48db
				ライン人力:ステレオ、ミニジャッ	ク、人力インビータ	マンス10K 、人力レベル最大2	Vrms、ケイン-6db
			出力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニ	シャック、出力レイ	ベル最大500mVrms(負荷イ	シピータンス33)
				フィン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インビーダンス47K)			
	通信	関連	LAN ボードの場合	RJ45(100BASE-TX/10	BASE-T JLA	Nコネクタ、リモートバワ・	-オン機能、OFF
		-		state Alert Ret			
			FAXモデムホードの場合	電話回線用モジュフーコイ	クタ、電話機用	モジュフーコネクタ	
	入力	USB1			イソツに接続、	マリスはキーボートに接続	
	関連	USB小型キーボードの場合			イクタに接続、	マウスはキーボードに接続	
		USB9			イソンに接続、	マリスはキーボードに接続	
	PS/2 109 モーホードの場合		109 キーホードの 場合			に接続、マリスはPS/2接続マー	ノスコイクタに接続
						ホート まにはFAXセナムホ 全、	ートで占有済)」
				1(ソイノトリナツゼブレーダホートで白月済)			
ノア1ルヘ1 3.51ンナベ1 +#0.5.0.5.4.4						「月府)	
内蔵3.5インナベイ			·^1	1(ハートティスソトブイノじ白有済) 2(CD ROMKSノブブ1フロットと右湾)			
	51ン	ナベイ		2(CD-ROM ドライブで1スロット占有 済)			
カレンダ時計				電池によるバックアップ			

マネジメント機能	運用管	箮理機能	デスクトップ管理ソフトウェア「DMITOOL」「pcANYWHERE32 EX」標準添付、		
			ESMPROクライアントライセンス(モデル構成により異なります)		
	障害管	 雪理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、ECC機能、OFF state		
			Alert 機能		
	セキュ	∟リティ機能	スーパバイザパスワード、ユーザパスワード、セキュリティロック(電子ロック)、ルー		
			フカパーオープン検知		
環境条件	電源		AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応		
	温湿	度条件	10~35、20~80%(但し結露しないこと)		
消費電力	本体標準構成時		約34W(最大約170W)	約33W(最大約170W)	
	スタンパイ状態時		約 19W		
	エネノ	レギー消費効率	19W		
外形寸法	本体		135(H)×419(D)×430(W)mm		
		USB109 キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm		
	+ -	USB小型キーボードの場合	40(H)×178(D)×370(W)mm		
	ボード	USB98 配列キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm		
		PS/2 109 キーボードの場合	35(H)×169(D)×467(W)mm		
重量	本体		約 11.4Kg		
	USB109キーボードの場合		約 1.2Kg		
	+ -	USB小型キーボードの場合	約 980g		
	ボード	USB98配列キーボードの場合	約 1.2Kg		
	PS/2 109 キーボードの場合		約1.1Kg		

3 付 録 MA36H/S本体機能仕樣

型番				PC-MA36HS 3		
型 名				MA36H/S model 3		
CPU				Intel⊛ Celeron™プロセッサ(333MHz)		
	内蔵キャッシュメモリ		EIJ	32KB		
	シスラ	テムバス		66MHz		
メモリ	セカンドキャッシュメモリ		ュメモリ	128KB(CPU内蔵)		
	BIOS ROM(Flash ROM)			512KB、プラグ&プレイ対応		
	メイン	RAM		ECC機能対応 最大384MB DIMMスロット×3(標準搭載されるメモリの容量・		
				空きスロットはモデル構成により異なります)		
	ビデ	T RAM		4MB(SGRAM)		
表示機能	ウィン	パウアクセラ	ラレータ	STMicroelectronics社製RIVA128搭載(ビデオ/3Dアクセラレーション機能搭載)		
	グラフ	フィック表示		640×480 ドット 最大 1,677 万色		
				800×600 ドット 最大 1,677万色		
				1,024×768 ドット 最大 1,677 万色		
				1,280×1,024ドット 最大32,768色		
サウンド機能				YAMAHA社製YMF724E搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット		
				/16ビット、サンプリングレート 11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二		
				重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備、ウェープテーブル		
				シンセサイザー機能搭載		
補助記憶装置	フロッ	ッピーディスク	フドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1		
	ハー	・ドディスクドライブ		UltraATA対応、SMART機能対応 ハードディスクドライブの容量はモデル構成により異なります		
	出荷時ソフト占有量		ト占有量	アプリケーションなしモデル:約600MB、一太郎モデル:約920MB、Wordモデル:約		
				730MB、ESMPROモデル:約600MB(搭載しているメモリの容量により異なります)		
	CD-F	ROM ドライ ス	1	内蔵 最大32倍速(平均23倍速)		
インタフェース	ディス	スプレイ		アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン		
	シリアルコネクタ		コネクタ 1	最大 11,5200bps、D-sub9 ビン		
			コネクタ 2	最大 11,5200bps、D-sub9 ビン		
	パラし	レルコネクタ		D-sub25ピン		
	USB			2(本体正面×1、本体背面×1)		
	サウン	ナウンド関連 入力		マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db		
				ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インビーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db		
			出力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33)		
				ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)		
	通信	関連	LAN ボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能		
	<u>۸</u>	USB109	キーボードの場合	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続		
	開演	USB小型	』キーボードの場合	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続		
	制建	USB98	列キーボードの場合	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続		
		PS/2 109 キーボードの場合		キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続		
PCI ZUNF				4[フルサイズ×3、ハーフサイズ×1(LANボードで占有済)]		
ファイルペイ	3.5 1	ンチペイ		2(フロッピーディスクドライブで1スロット占有済)		
	内蔵3.5インチベイ			1(ハードディスクドライブで占有済)		
	5イン	チペイ		2(CD-ROM ドライブで1スロット占有済)		
カレンダ時計				電池によるバックアップ		

マネジメント機能	運用智	 雪理機能	デスクトップ管理ソフトウェア「DMITOOL」「pcANYWHERE32 EX」標準添付、			
			ESMPROクライアントライセンス(モデル構成により異なります)			
	障害管	 雪理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、ECC機能			
	セキュ	∟リティ機能	スーパバイザパスワード、ユーザパスワード、セキュリティロック、ルーフカバーオープ			
			ン検知			
環境条件	電源		AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応			
	温湿度	度条件	10~35、20~80%(但し結露しないこと)			
消費電力	本体権	萗準構成時	約31W(最大約166W)			
	サスヘ	ペンド状態時	約 25W			
	エネル	レギー消費効率	26W			
外形寸法	本体		135(H)×419(D)×430(W)mm			
		USB109 キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm			
	+ -	USB小型キーボードの場合	40(H)×178(D)×370(W)mm			
	ボード	USB98配列キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm			
		PS/2 109 キーボードの場合	35(H)×169(D)×467(W)mm			
重量	本体		約 11.2Kg	約 11.2Kg		
	USB109 キーボードの場合		約 1.2Kg			
	+ -	USB小型キーボードの場合	▶型キーボードの場合 約980g			
	ボード	USB98 配列キーボードの場合	約 1.2Kg			
		PS/2 109キーボードの場合	約1.1Kg			



MA33H/S、MA30H/S本体機能仕樣

型 番					PC-MA33HS 3 PC-MA30HS 3		
型名					MA33H/S model 3 MA30H/S model 3		
CPU	CPU				Intel® Celeron [™] プロセッサ(333MHz) Intel® Celeron [™] プロセッサ(300AMHz)		
	内蔵キャッシュメモリ			EIJ	32KB		
システムバス					66MHz		
メモリ	セカンドキャッシュメモリ			ュメモリ	128KB(CPU内蔵)		
	BIOS ROM(Flash ROM)			sh ROM)	512KB、 プラグ&プレイ対応		
	メイン	RAM			ECC機能対応 最大384MB DIMMスロット×3(標準搭載されるメモリの容量・		
					空きスロットはモデル構成により異なります)		
	ビデオ	RAM			4MB(SGRAM)		
表示機能	ウィン	ドウアク	セラ	ラレータ	STMicroelectronics社製RIVA128搭載(ビデオ/3Dアクセラレーション機能搭載)		
	グラフ	イック君	辰示		640×480 ドット 最大 1,677万色		
					800×600 ドット 最大 1,677万色		
					1,024×768 ドット 最大 1,677 万色		
					1,280×1,024 ドット 最大 32,768色		
サウンド機能					YAMAHA社製YMF724E搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット		
					/16ビット、サンプリングレート 11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二		
					重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備、ウェープテーブル		
					シンセサイザー機能搭載		
補助記憶装置	フロッ	ピーデ	17	パライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1		
		ディス	クドラ	ライブ	UltraATA対応、SMART機能対応 ハードディスクドライブの容量はモデル構成により異なります		
	出荷時ソフト占有量		小占有量	アプリケーションなしモデル:約700MB、一太郎モデル:約1030MB、Wordモデル:			
					約840MB、一太郎9&1-2-3 98モデル:約960MB、ESMPROモデル:約700MB		
	CD-R	OMP:	572	7			
インタフェース	ティス	フレイ			アナログRGBセバレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ビン		
	シリア	リアルコネクタ コネクタ1		コネクタ1	最大11,5200bps、D-sub9ビン		
				コネクタ 2	最大11,5200bps、D-sub9ビン		
		ルコネ	79				
	USB			<u> </u>	2(4) 4) 4 (1) 4 (4) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1		
	נסד	ッド関連 入力		ЛЛ	マイクスカンモノフル、ミニシャック、供給電源2.5%、マイク団カインビータンス600、マイク感度-4800		
					フィンヘル:ステレオ、ミージャック、ヘルインビーダンス10K 、ヘルレヘル電大2Vrms、ディン-6dD		
			H 7		「ハッド小ノ山ノ」、ステレオ、ミーンヤック、山ノレハル取入500mVrms(貝何インビーダンス33) ライン出力・フテレオ ミージャック 出力しな U.テナイVrms(台谷ノンビーダンス33)		
	汤信用			시 뿐 - 너 저 생수			
	週1日日	刹建	LA		R343(100BASE-1X/10BASE-1)LANコネクタ、リモードハジーオン機能		
			FA	▲モナムホートの場合	电前四秋用てンコンニコイング、电前候用てンコンニコイング		
	入力		USB109キーホードの場合 USB小型キーボードの場合		↓ T = い = には、平平∪>B → インツに按照、イソスはオーハートに按照 まーポードけ 木休!!SR → ネクタに接続 マウスけキーポードに接続		
	関連				キーボードは、本体USDコネクタに接続。マウスはキーボードに接続		
		DS/2	10	ロキーボードの場合	オーボードは、本体USDコインソビ技能、マンスはオーホードに技能 キーボードは、本体DS/2逆結キーボードコネクタに逆結。マウスドDS/2逆結マウスコネクタに逆結		
PCIZ DWb							
0.51/2711			- チベ	1	2(ノロッピーン・コスパン・フィン・ビスロットロ 市内) 1(ハードディスクドライブで占有済)		
5インチベイ					2(CD-ROM ドライブで1スロット占 有済)		
カレンダ時計	5.12	2.14					
ハレンツ 時間					モルシーチャンシン ツノ		

マネジメント機能	運用智	管理機能	デスクトップ管理ソフトウェア「DMITOOL」「pcANYWHERE32 EX」標準添付、			
			ESMPROクライアントライセンス(モデル構成により異なります)			
	障害領	管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、ECC機能			
	セキコ	リティ機能	スーパバイザパスワード、	スーパパイザパスワード、ユーザパスワード、セキュリティロック、ルーフカバーオープ		
			ン検知			
環境条件	電源		AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応			
	温湿度	度条件	10~35、20~80%(但し結露しないこと)			
消費電力	本体材	票準構成時	約31W(最大約166W)			
	スタン	バイ状態時	約 25W			
	エネル	レギー消費効率	26W			
外形寸法	本体		135(H)×419(D)×430(W)mm			
		USB109 キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm			
	+ -	USB小型キーボードの場合	40(H)×178(D)×370(W)mm			
	ボード	USB98配列キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm			
		PS/2 109 キーボードの場合	35(H)×169(D)×467(W)mm		
重量	本体		約 11.2Kg	約 11.2Kg		
	USB109 キーボードの場合		約 1.2Kg			
	+ -					
	ボード USB98 配列キーボードの場合 約 1.2Kg					
		PS/2 109キーボードの場合	約 1.1Kg			

3 付 録
MA45D/C本体機能仕様

型番				PC-MA45DC 3
型名				MA45D/C model 3
CPU				Pentium _e ll プロセッサ(450MHz)
	内蔵	キャッシュ	メモリ	32KB
	シスラ	ームバス		100MHz
メモリ	セカン	/ドキャッ?	シュメモリ	512KB (CPU 内蔵)
	BIOS	6 ROM (F	lash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応
	メイン	'RAM		ECC機能対応 最大512MB DIMMスロット×2(標準搭載されるメモリの容量・
				空きスロットはモデル構成により異なります)
	ビデス	RAM		4MB(SGRAM)
表示機能	ウィン	ドウアク	セラレータ	STMicroelectronics社製RIVA128搭載(ビデオ/3Dアクセラレーション機能搭載)
	グラフ	7ィック表	示	640×480 ドット 最大 1,677万色
				800×600 ドット 最大 1,677万色
				1,024×768 ドット 最大 1,677 万色
				1,280×1,024 ドット 最大 32,768色
サウンド機能				YAMAHA社製YMF740搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット
				/16ビット、サンプリングレート 11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二
				重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備、ウェープテーブル
				シンセサイザー機能搭載
補助記憶装置	フロッ	ピーディ	スクドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1またはスーパーディスクドラ
	または	はスーパー	ディスクドライブ	イプ(4モード対応)
	ハー	・ディスク	ドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応 ハードディスクドライブの容量はモデル構成により異なります
		出荷時と	ノフト占有量	アプリケーションなしモデル:約700MB、一太郎モデル:約1030MB、Wordモデル:
				約840MB、一太郎9&1-2-3 98モデル:約960MB、ESMPROモデル:約700MB
	CD-F	۰ ۶۴ МО	イプ	内藏 最大24倍速(平均17倍速)
インタフェース	ディス	、プレイ		アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン
	シリア	ノルコネク	9 37791	最大 11,5200bps、D-sub9 ビン
	バラレ	/ルコネク	9	D-sub25ピン
	USB			2(本体正面×1、本体背面×1)
	サウン	/ド関連	入力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db
				ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インビーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db
			出力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33)
				ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)
	通信	関連 !	LAN ボードの場合	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF
				state Alert 機能
		F	FAX モデムボードの場合	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ
	۸ <i>т</i>	USB1	09キーボードの場合	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
	関連	USB	\型キーボードの場合	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
		USB98	記列キーボードの場合	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
		PS/2	109 キーボードの場合	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続
PCI ZUNF				2[ハーフサイズ×2]
ファイルペイ	3.5 1	ンチペイ		1(フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブで占有済)
	内蔵	3.5 インチ	ペイ	1(ハードディスクドライブで占有済)
	5イン	チペイ		1(CD-ROM ドライブで占有済)
カレンダ時計				電池によるパックアップ

マネジメント機能	運用智	管理機能	デスクトップ管理ソフトウェア「DMITOOL」「pcANYWHERE32 EX」標準添付、
			ESMPROクライアントライセンス(モデル構成により異なります)
	障害管理機能		SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、ECC機能、OFF state
			Alert 機能
	セキコ	∟リティ機能	スーパバイザパスワード、ユーザパスワード、セキュリティロック、ルーフカバーオープ
			ン検知
環境条件	電源		AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応
	温湿度	度条件	10~35、20~80%(但し結露しないこと)
消費電力	本体材	萗準構成時	約34W(最大約120W)
	スタン	バイ状態時	約 20W
	エネル	レギー消費効率	20W
外形寸法	本体		306(H)×320(D)×86(W)mm(縦置き・スタビライザ含まず)、
			306(H)×320(D)×161(W)mm(縦置き・スタビライザ含む)
		USB109 キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm
	+ -	USB小型キーボードの場合	40(H)×178(D)×370(W)mm
	ボード	USB98 配列キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm
		PS/2 109 キーボードの場合	35(H)×169(D)×467(W)mm
重量			約6.6Kg(スタビライザ含まず)、約6.8Kg(スタビライザ含む)
		USB109 キーボードの場合	約 1.2Kg
	+ -	USB小型キーボードの場合	約 980g
	ボード	USB98配列キーボードの場合	約 1.2Kg
		PS/2 109 キーボードの場合	約 1.1Kg

MA45D/C、MA40D/C、MA35D/C本体機能仕樣

型番				PC-MA40DC	3	PC-MA35DC	3
型名				MA40D/C model	3	MA35D/C model	3
CPU				Pentium _® II プロセッサ(400MHz)	Pentium _® II プロセッサ(350MHz)
	内蔵	キャッシュ	.メモリ	32KB			
	システムバス			100MHz			
メモリ	セカン	バキャッ	シュメモリ	512KB(CPU内蔵)			
	BIOS	ROM (I	Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイジ	対応		
	メイン	RAM		ECC機能対応 最大5	12MB DIMM7	、ロット×2(標準搭載され	いるメモリの容量・
				空きスロットはモデル構成	成により異なります	f)	
	ビデオ	RAM		4MB(SGRAM)			
表示機能	ウィン	ドウアク	セラレータ	STMicroelectronics 7	上製RIVA128搭載	(ビデオ/3Dアクセラレー	ション機能搭載)
	グラフ	7ィック表:	示	640×480 ドット	最大1,677万1	≛	
				800×600 ドット	最大 1,677万1	≜	
				1,024 × 768 ドット	最大1,677万1	<u></u>	
				1,280×1,024 ドット	最大32,768色	l .	
サウンド機能				YAMAHA社製YMF74	0搭載 PCM録	音再生機能内蔵(ステレ	オ、量子化8ビット
				/16ビット、サンプリング	レート 11.025K	Hz/22.05KHz/44.1KH	z/48KHz)、全二
				重対応(モノラル、量子	化8ビット時)、内前	志モノラルスピーカ装備 、	ウェーブテーブル
				シンセサイザー機能搭載	R .		
補助記憶装置	フロッ	ピーディ	スクドライブ	3.5インチフロッピーディ	(スクドライブ(3モ	ード対応)×1またはスー	・パーディスクドラ
	または	はスーパー	・ディスクドライブ	イブ(4モード対応)			
	ハート	・ディスク	ドライブ	UltraATA 対応、 SMART機能	能対応 ハードディス	マクドライブの容量はモデル構	成により異なります
		出荷時)	ノフト占有量	アプリケーションなしモラ	デル:約 700MB、・	-太郎モデル:約1030M	B、Word モデル :
				約840MB、一太郎9&1-	·2-3 98モデル:約	1960MB、ESMPROモデ	ル:約 700MB
	CD-ROM ドライブ		イブ	内蔵 最大24倍速(平均	均17 倍速)		
インタフェース	ディス	、プレイ		アナログRGBセパレート	信号出力(75 ア	ナログインタフェース)、ミ	ニD-sub15ピン
	シリア	ノルコネク	9 37091	最大11,5200bps、D-si	ub9 ピン		
	パラレ	ノルコネク	19 19	D-sub25ピン			
	USB			2(本体正面×1、本体背	首 x1)		
	サウン	/ド関連	入力	マイク入力:モノラル、ミニジャ	ァック、供給電源 2.5V、	マイク出力インピーダンス600	、 マイク感度 -48db
				ライン入力:ステレオ、ミニジャ	ャック、入力インピータ	シス10K 、入力レベル最大 な	2Vrms 、ゲイン -6db
			出力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミ	ミニジャック、出力レイ	ベル最大 500mVrms (負荷イ	ンピーダンス33)
				ライン出力:ステレオ、ミニ	ニジャック、出力レベ	、 ル最大1Vrms(負荷イン	ピーダンス47K)
	通信	関連	LAN ボードの場合	RJ45(100BASE-TX/	10BASE-T)LA	Nコネクタ、リモートパワ・	ーオン機能、OFF
				state Alert 機能			
			FAXモデムボードの場合	電話回線用モジュラーコ	コネクタ、電話機用	モジュラーコネクタ	
	۸ <i>т</i>	USB1	09 キーボードの場合	キーボードは、本体USB	コネクタに接続、	マウスはキーボードに接続	l
	関連	USB	\型キーボードの場合	キーボードは、本体USB	コネクタに接続、	マウスはキーボードに接続	l
		USB98	記列キーボードの場合	キーボードは、本体USB	コネクタに接続、	マウスはキーボードに接続	
	PS/2		109 キーボードの場合	キーボードは、本体PS/2接続	売キーボードコネクタ	こ接続、マウスはPS/2接続マ	ウスコネクタに接続
PCI スロット				2[ハーフサイズ×2]			
ファイルペイ	3.5 1	ンチペイ		1(フロッピーディスクドラ	ライブまたはスーハ	ーディスクドライブで占有	ī済)
	内蔵	3.5 インチ	ペイ	1(ハードディスクドライン	プで占有済)		
	5イン	チペイ		1(CD-ROM ドライブで ,	占有済)		
カレンダ時計				電池によるバックアップ			

マネジメント機能	運用管理機能		デスクトップ管理ソフトウェア「DMITOOI	_」「pcANYWHERE32 EX」標準添付、
			ESMPROクライアントライセンス(モデル	構成により異なります)
	障害管	管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU	・電源ファン監視、ECC機能、OFF state
			Alert 機能	
	セキコ	リティ機能	スーパパイザパスワード、ユーザパスワー	ド、セキュリティロック、ルーフカバーオープ
			ン検知	
環境条件	電源		AC100V ± 10%, 50/60Hz, V7hウェア/	(ワーオフ対応
	温湿度	 長条件	10~35、20~80%(但し結露しないこと	:)
消費電力	本体体	票準構成時	約34W(最大約120W)	約33W(最大約120W)
	スタン	バイ状態時	約 20W	
	エネノ	レギー消費効率	20W	
外形寸法	本体		306(H)×320(D)×86(W)mm(縦置き	・スタビライザ含まず)
			306(H)×320(D)×161(W)mm(縦置	き・スタビライザ含む)
		USB109 キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm	
	+ -	USB小型キーボードの場合	40(H)×178(D)×370(W)mm	
	ボード	USB98 配列キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm	
		PS/2 109 キーボードの場合	35(H)×169(D)×467(W)mm	
重量	本体		約6.6Kg(スタビライザ含まず)、約6.8Kg(スタビライザ含む)	約6.6Kg(スタビライザ含まず)、約6.8Kg(スタビライザ含む)
		USB109 キーボードの場合	約 1.2Kg	
	+ -	USB小型キーボードの場合	約 980g	
	ボード	USB98配列キーボードの場合	約 1.2Kg	
		PS/2 109キーボードの場合	約1.1Kg	

MA36H/C本体機能仕樣

型番	ł			PC-MA36HC 3
型名				MA36H/C model 3
CPU				Celeron™ プロセッサ(366MHz)
	内蔵=	キャッシュ	メモリ	32KB
	システ	ームバス		66MHz
メモリ	セカン	パキャッシ	シュメモリ	128KB (CPU 内蔵)
	BIOS	6 ROM (F	lash ROM)	512KB、 プラグ&プレイ対応
	メイン	'RAM		最大256MB DIMMスロット×2(標準搭載されるメモリの容量・空きスロットはモデ
				ル構成により異なります)
	ビデオ	RAM		4MB(SDRAM)
表示機能	ウィン	ドウアクも	zラレータ	ATI Technologies社製RAGE II C™搭載(ビデオ/3Dアクセラレーション機能搭載)
	グラフ	7ィック表え	7	640×480 ドット 最大 1,677万色
				800×600 ドット 最大 1,677万色
				1,024×768 ドット 最大 1,677万色
				1,280×1,024 ドット 最大 65,536色
サウンド機能				YAMAHA社製YMF740搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット
				/16 ビット、サンプリングレート 11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全 二
				重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備、ウェープテーブル
				シンセサイザー機能搭載
補助記憶装置	フロッ	ピーディス	スクドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1、またはスーパーディスクドラ
	または	はスーパー	ディスクドライブ	イプ(4モード対応)
	ハード	・ディスク	ドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応 ハードディスクドライブの容量はモデル構成により異なります
		出荷時ン	/フト占有量	アプリケーションなしモデル:約700MB、一太郎モデル:約1030MB、Wordモデル:
				約840MB、一太郎9&1-2-3 98モデル:約960MB、ESMPROモデル:約700MB
	CD-ROM ドライブ機能			内蔵最大24倍速(平均17倍速)
インタフェース	ディス	、プレイ		アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン
	シリア	パルコネク	9 37791	最大11,5200bps、D-sub9ビン
	パラレ	<i>、</i> ルコネク	タ	D-sub25E2
	USB			2(本体正面×1、本体背面×1)
	サウン	パ関連	入 カ	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インビーダンス600、マイク感度-48db
				ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インビーダンス10K 、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db
			出力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニシャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インビーダンス33)
				ライン出力:ステレオ、ミニシャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インビーダンス47K)
	通信	新連 し	ANホードの場合	RJ45(100BASE-IX/10BASE-I)LANコネクタ、リモートハリーオン機能
		F	AXモデムボードの場合	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ
	入力	USB10	09キーボードの場合	キーホードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーホードに接続
	関連	USB		キーホートは、本体USBコイソンに接続、マリスはキーホートに接続
		05898		キーホードは、本体USBコネクタに接続、マワスはキーホードに接続
	PS/2 109キーホードの場合		09キーホートの場合	キーボートは、4体PS/2接続キーボートコイクタに接続、マリスはPS/2接続マリスコイクタに接続
PCIALINF				
77111~1	3.5インチペイ			1(ノロッヒーナイスクトライノまたはスーハーナイスクトライノで占有済)
	内蔵3.5インチペイ			1(ハートナイスクトライノで百有済)
もしいが味噌				
カレンタ時計	19 m d			电心によるハックアップ
マインスント機能	運用背	巪 Ľ (焼 能		テスソアッノ言理ソノアリエア・DMITOUL」、PCANYWHERE32 EX」標準涨行、 COMPDOカニイマンルニノカンフィエゴル構成にというないます、
				こうWIFKUソノ1 アノアフ1 ビノス(モナル(常成により共なります)
	障害る	日理機能		511/5717 17382、血反型況、电圧型況、550 電源ノアノ型況
	2+3	リナイ機	96	スーハハイ シハスシード、ユーリハスソード、セキュリティロック、ルーノカハーオーノ い絵句
				ノ(沢川

環境条件	電源		AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応
	温湿度	度条件	10~35、20~80%(但し結露しないこと)
消費電力	本体材	謤準構成時	約28W(最大約110W)
	スタン	バイ状態時	約 21W
	エネル	レギー消費効率	22W
外形寸法	本体		306(H)×320(D)×86(W)mm(縦置き・スタビライザ含まず)、
			306(H)×320(D)×161(W)mm(縦置き・スタビライザ含む)
		USB109 キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm
	+ -	USB小型キーボードの場合	40(H)×178(D)×370(W)mm
	ボード	USB98 配列キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm
		PS/2 109 キーボードの場合	35(H)×169(D)×467(W)mm
重量	本体		約6.6Kg(スタビライザ含まず)、約6.8Kg(スタビライザ含む)
		USB109 キーボードの場合	約 1.2Kg
	+ -	USB小型キーボードの場合	約 980g
	ボード	USB98配列キーボードの場合	約1.2Kg
		PS/2 109 キーボードの場合	約 1.1Kg

3 付 録

MA30H/C本体機能仕樣

型番				PC-MA30HC 3
型名				MA30H/C model 3
CPU				Celeron™ プロセッサ(300AMHz)
	内蔵=	キャッシュメ	モリ	32KB
	システ	・ムバス		66MHz
メモリ	セカン	パキャッシ	ュメモリ	128KB (CPU 内蔵)
	BIOS	ROM(Fla	ash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応
	メイン	RAM		最大256MB DIMMスロット×2(標準搭載されるメモリの容量・空きスロットはモデ
				ル構成により異なります)
	ビデオ	RAM		4MB(SDRAM)
表示機能	ウィン	ドウアクセ	ラレータ	ATI Technologies社製RAGE II C™搭載(ビデオ/3Dアクセラレーション機能搭載)
	グラフ	イック表示		640×480 ドット 最大 1,677 万色
				800×600 ドット 最大 1,677万色
				1,024×768 ドット 最大 1,677 万色
				1,280×1,024 ドット 最大 65,536 色
サウンド機能				YAMAHA社製YMF740搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット
				/16ビット、サンプリングレート 11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二
				重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備、ウェープテーブル
				シンセサイザー機能搭載
補助記憶装置	フロッ	ピーディス	クドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1、またはスーパーディスクドラ
	または	はスーパーラ	ディスクドライブ	イブ(4モード対応)
	ハード	ディスクド	ライブ	UltraATA対応、SMART機能対応 ハードディスクドライブの容量はモデル構成により異なります
		出荷時ソ	フト占有量	アプリケーションなしモデル:約700MB、一太郎モデル:約1030MB、Wordモデル:
				約840MB、一太郎9&1-2-3 98モデル:約960MB、ESMPROモデル:約700MB
	CD-R	OMF51	プ機能	内蔵 最大24倍速(平均17倍速)
インタフェース	ティス	フレイ		アナログRGBセバレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ビン
	シリア	ルコネクタ	コネクタ1	最大11,5200bps、D-sub9ビン
	バラレ	ルコネクタ	7	
	USB			2(4) 4) 上田×1、4) 4) 1 (1) 2(4) 4) 1 (1) 2(4) 1 (1) 1
	עפיד	/ド関連	<u>л</u>	マイク入力:モノフル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク団カインビータンス600 、マイク感度-4800
				フィンスリニステレオ、ミージャック、スリインビーダンス10K 、スリレベル電大2Vrms、ゲイン-6db
				ヘットホノ田ガ:ステレオ、ミニシャック、田ガレヘル軍人500mVrms(夏何イノビーダノス33)
	法法律			
	1週1日月			RJ45(100BASE-17/10BASE-1)LANコインダ、リモートハリーオン機能
				电前回線用モンエノーコイソフ、电前機用モンエノーコイソフ キーボードは まないCPコナクタに接続 フロフけキーボードに接続
	入力		9キーホードの場合 刑キーボードの場合	オーホードは、4件USDコネクタに接続。マウスはオーホードに接続 キーボードは、本体USDコネクタに接続。マウスはキーボードに接続
	関連			キーボードは、本体USBコネクタに接続。マウスはキーボードに接続
		PS/2 10	19月 ホーの場合	キーボードは 木体PS/2接続キーボードコネクタに接続 マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続
PCIZOWE	10/21009			
ファイルペイ	3.5インチベイ			2(ハーンフィスへと) 1(フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブで占有済)
	0.0122 (1) 内蔵3.5インチベイ			1(ハードディスクドライブで占有済)
	5インチベイ			1(CD-ROM ドライブで 占有済)
カレンダ時計				電池によるバックアップ
マネジメント機能	運用會	፻理機能		デスクトップ管理ソフトウェア「DMITOOL」「pcANYWHERE32 EX」標準添付、
				ESMPROクライアントライセンス(モデル構成により異なります)
	障害管	管理機能		SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視
	セキュ	リティ機能	1	スーパパイザパスワード、ユーザパスワード、セキュリティロック、ルーフカパーオープ
				ン検知

環境条件	電源		AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応
	温湿度	度条件	10~35、20~80%(但し結露しないこと)
消費電力	本体核	票準構成時	約28W(最大約110W)
	スタン	バイ状態時	約 21W
	エネル	レギー消費効率	22W
外形寸法	本体		306(H)×320(D)×86(W)mm(縦置き・スタビライザ含まず)。
			306(H)×320(D)×161(W)mm(縦置き・スタビライザ含む)
		USB109 キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm
	+ -	USB小型キーボードの場合	40(H)×178(D)×370(W)mm
	ボード	USB98 配列キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm
		PS/2 109 キーボードの場合	35(H)×169(D)×467(W)mm
重量	本体		約6.6Kg(スタビライザ含まず)、約6.8Kg(スタビライザ含む)
		USB109 キーボードの場合	約 1.2Kg
	+ -	USB小型キーボードの場合	約 980g
	ボード	USB98 配列キーボードの場合	約 1.2Kg
		PS/2 109 キーボードの場合	約 1.1Kg

3 付 録

MA30H/L本体機能仕樣

型番				PC-MA30HL 3	
型名					MA30H/L model 3
CPU					Celeron™ プロセッサ(300AMHz)
	内蔵キャッシュメモリ		EIJ	32KB	
	システ	・ムバス			66MHz
メモリ	セカン	パキャ	ッシュ	レメモリ	128KB (CPU 内蔵)
	BIOS	ROM	Fla	sh ROM)	512KB、 プラグ&プレイ対応
	ЖУRAM			最大256MB DIMMスロット×2(標準搭載されるメモリの容量・空きスロットはモデ	
					ル構成により異なります)
	ビデス	RAM			4MB(SDRAM)
表示機能	ウィン	ドウア	フセラ	ラレータ	ATI Technologies社製RAGE II C [™] 搭載(ビデオ/3Dアクセラレーション機能搭載)
	グラフ	イックえ	長示		640×480 ドット 最大 1,677万色
					800×600 ドット 最大 1,677万色
					1,024×768 ドット 最大 1,677 万色
					1,280×1,024 ドット 最大 65,536色
サウンド機能					YAMAHA社製YMF740搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット
					/16ビット、サンプリングレート 11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二
					重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備、ウェープテーブル
					シンセサイザー機能搭載
補助記憶装置	フロッ	ピーデ	ィスク	パライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1またはスーパーディスクドラ
	または	はスーパ	ーデ	ィスクドライブ	イプ(4モード対応)
	1-1	ディス	クドラ	ライブ	UltraATA対応、SMART機能対応 ハードディスクドライブの容量はモデル構成により異なります
		出荷時	シフ	卜占有量	アプリケーションなしモデル:約700MB、一太郎モデル:約1030MB、Wordモデル:
					約840MB、一太郎9&1-2-3 98モデル:約960MB、ESMPROモデル:約700MB
	CD-F	ROM	ライフ	が機能	内藏 最大24倍速(平均17倍速)
インタフェース	ディス	、プレイ			アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン
	シリア	'ルコネ	クタ	コネクタ 1	最大11,5200bps、D-sub9ビン
	バラレ	ルコネ	クタ		D-sub25ピン
	USB				2(本体正面×1、本体背面×1)
	サウン	/ド関連		入力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db
					ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インビーダンス10K 、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db
				出力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33)
					ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)
	通信	関連	LA	N ボードの 場合	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能
			FA	Xモデムボードの場合	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ
	λ 1 1	USB	109	キーボードの場合	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
	関連	USB	小型	キーボードの場合	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
		USB	98 E	列キーボードの場合	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
	PS/2 109 キーボードの場合		9キーボードの場合	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続	
PCI スロット				2[ハーフサイズ×2]	
ファイルベイ	3.5 インチベイ			1(フロッピーディスクドライプまたはスーパーディスクドライブで占有済)	
	内蔵3.5インチベイ		1	1(ハードディスクドライブで占有済)	
	5インチペイ				1(CD-ROM ドライブで占有済)
カレンダ時計					電池によるバックアップ
マネジメント機能	運用領	管理機	ie –		ESMPROクライアントライセンス(モデル構成により異なります)
	障害管	管理機	ie –		SMART機能
	セキュ	コリティ	幾能		スーパパイザパスワード、ユーザパスワード、セキュリティロック

環境条件	電源		AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応
	温湿度	度条件	10~35、20~80%(但し結露しないこと)
消費電力	本体核	謤準構成時	約28W(最大約110W)
	スタン	バイ状態時	約 21W
	エネル	レギー消費効率	22W
外形寸法	本体		306(H)×320(D)×86(W)mm(縦置き・スタビライザ含まず)、
			306(H)×320(D)×161(W)mm(縦置き・スタビライザ含む)
		USB109 キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm
	+ -	USB小型キーボードの場合	40(H)×178(D)×370(W)mm
	ボード	USB98 配列キーボードの場合	39(H)×178(D)×471(W)mm
		PS/2 109 キーボードの場合	35(H)×169(D)×467(W)mm
重量	本体		約6.6Kg(スタビライザ含まず)、約6.8Kg(スタビライザ含む)
		USB109 キーボードの場合	約 1.2Kg
	+ -	USB小型キーボードの場合	約 980g
	ボード	USB98配列キーボードの場合	約 1.2Kg
		PS/2 109 キーボードの場合	約 1.1Kg

3 付 録

LAN**ボード機能仕様**

ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX 使用時 :100Mbps
	10BASE-T 使用時 :10Mbps
伝送路	100BASE-TX 使用時 :UTP カテゴリ 5
	10BASE-T 使用時 :UTP カテゴリ 3,4,5
信号伝送方式	ベースパンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD 方式
ステーション台数	最大1024台/ ネットワーク
ステーション間距離/	100BASE-TX: 最大約 200m/ ステーション間
ネットワーク経路長	10BASE-T: 最大約 500m/ ステーション間
	最大100m/セグメント

リピータの台数など、条件によって異なります。

FAXモデムボード機能仕様

FAX**機能**

交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3 ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM: 14400/12000/9600/7200bps
	DPSK: 4800/2400bps
	FSK: 300bps
送信レベル	-9~-15dBm (出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10~-40dBm
制御コマンド	EIA-578 拡張 AT コマンド(CLASS1)

回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

適用回線	加入電話回線			
同期方式	全二重調歩同期方式			
通信速度	送受信: 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/			
	14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps			
	受信のみ: 56000/54666/54000/53333/52000/50666/50000/49333/			
	48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/			
	40000/38666/38000/37333/36000/34666/34000/33333/			
	32000/30666/29333/28000bps			
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21			
変調方式	TCM: 56000/54666/54000/53333/52000/50666/50000/49333/48000/			
	46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/38666/			
	38000/37333/36000/34666/34000/33600/33333/32000/31200/			
	30666/29333/28800/28000/26400/24000/21600/19200/16800/			
	14400/12000/9600/7200bps			
	QAM: 9600/7200bps			
	DPSK: 4800/2400/1200bps			
	FSK: 1200/300bps			
エラー訂正	ITU-T V.42 (LAPM) MNP class4			
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5			
送信レベル	-9~-15dBm (出荷時 -15dBm)			
受信レベル	-10~-40dBm			
制御コマンド	HayseAT コマンド準拠			

回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

NCU機能

適用回線	加入電話回線		
ダイヤル方式	パルスダイヤル (10/20PPS)		
	トーンダイヤル (DTMF)		
NCU 形式	AA (自動発信/自動着信型)		
	MA (手動発信/自動着信型)		
	MM (手動発信/手動着信型)		
	AM (自動発信/手動着信型)		
制御コマンド	HayseAT コマンド準拠		
	EIA-578 拡張 AT コマンド(CLASS1)		

ATコマンド

ATコマンドとは、電話回線に対してDTE(パソコンなどの端末機器)からのコマンドにより自動発着信を行うために米国Hayes社が開発したコマンド体系で AT "で始まることからこのように呼ばれています。

コマンドの構成

ATコマンドセット(A/コマンドを除く)では、DTEが送る各コマンドライ ンはキャラクターシーケンスATで始まり、キャリッジリターン(以降CR と表記。【Enter 】を指します)で終了しなければなりません。ATシーケンス は、いくつものコマンドをその次に続けることができます。ただし、乙、D、 Aのようなコマンドは除きます。コマンドラインの最大キャラクタ数は60 です。もしコマンドラインのどこかで構文エラーが見つかった場合には、 ラインの残りは無視されます。

AT コマンド列 CR

メモ

DTE:パソコン(本体)を指します。 DCE:FAXモデムボードを指します。

コマンド一覧

基本ATコマンド

種類	ATコマンド	機能			
アンサーモードで回線接続	Α	アンサーモードで回線に接続し、通信状態になる。自動応答に			
		していない状態で、応答する場合に使用する。			
コマンドの再実行	Α/	す前に実行したコマンドを再実行する。このコマンドの前には			
		「AT」はつけない。また、最後の(CR)もつけない。			
ダイヤルの実行	D	指定された電話番号にダイヤルし、接続する。			
1111020	5	$P (J_{L}, J_{L}, J_$			
		□ トーンダイヤル(プッシュ回線)			
		W 第2 ダイヤルトーン を始出する(DDX等のダイヤルトーンを			
		論出する)			
		◎ 5秒間の無音状態を始出する。検出できない場合け「NO			
		パージャングで指定された時間、ショドルを行う。備約文決機、			
		0~9、*、#…伯子の電話留ちをクイマル98。クイマル留ち			
		ダイヤルのみ使用できる。			
		;…ダイヤル俊コマントセートに戻る。			
		S=n&Znで豆球した電話留ちにダイヤル9る。			
		し…最後にかけた香号にリダイヤルする。			
	_				
コマンドエコー有無の設定	E	DIE(ハリコン側)から送られたコマンドのエコー(文字をその			
		まま送り返9)の有無を指定9る。			
		E0 コマンドモード時DIEから入力したコマンド文字をDIE (
		E1 コマンドモード時DIEから入力したコマンド文子をDIE			
回線の接続 / 切断	н				
		H1 回線を接続(オフフック)する。			
識別コート表示	1				
		10 テフォルトスピード、コントローラド/Wハージョンの表示。			
		11 ROMのチェックサムコードを表示する。			
		12 ROMのチェックを実行する。			
モニタースピーカ	L	FAXモテムホードの内蔵スピーカの音量を設定する。			
最大首重設定					
		L2 音量中(1) 上場出荷時)。			
モニタースピーカの動作設定	M	内部モニタースピーカのON/OFFのタイミングを設定する。			
		M0 スピーカを常にOFFにする。			
		M1 キャリアを検出するまでONにする(工場出荷時)。			
		M2 スピーカを常にONにする。			
		M3 ダイヤル終了からキャリア検出までONにする。			

()AT&Wでバックアップ可能

3 付 録

種類	ATコマンド	機能		
自動モードの設定	N	相手モデムとの通信速度決定の方法を指定する。	1	
		N0 相手モデムとの通信速度決定を自動で行わない。		
		N1 相手モデムとの通信速度決定を自動で行う(工場出荷時)。		
オンラインモードに戻る	0	オンラインモード中にエスケープコマンド(+++)によってコマンド		
		モードになったときに、再びオンラインモードに戻るのに使用する。		
		O0 オンラインモードに戻る。		
		O1 トレーニングを再度実行して、オンラインモードに戻る。		
		O3 ネゴシエーション後にオンラインモードに戻る。		
パルス回線(ダイヤル回線)	Р	ダイヤルをパルスで行うモードに設定する。		
モードの設定				
リザルトコードの設定	Q	リザルトコードをDTE(パソコン側)に返すか、返さないかのモ		
		ードを指定する。	6	,
		Q0 リザルトコードをパソコンに返す(工場出荷時)。	È	
		Q1 リザルトコードをパソコンに返さない。		
S レジスタの読み出し	Sr?	Sレジスタの内容を読み出す。ATSO?(CR)でレジスタの内容		
		を読み出す。		
Sレジスタの設定	Sr=n	Sレジスタを設定する。		
		ATSr=n(CR)でrに設定したいレジスタの番号、nにレジスタ		
		の値を10進数で設定する。		
		ATS2=43(CR)でS2レジスタに43(10進数)を設定する。		
トーン回線(プッシュ回線)	Т	ダイヤルをトーンで行うモードに設定する。		
モードの設定				
リザルトコードタイプの	V	ATコマンドのリザルトコードの形式を指定する。		
設定		V0 リザルトコードを数字表示に設定する。	()
		∨1 リザルトコードを文字表示に設定する(工場出荷時)。		
接続リザルトコード拡張	W	モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。		
(エラー訂止)の設定		W0 接続時にDTEスピードのみを返す(例CONNECT19200)。		
		W1 接続時にエラー訂止フロトコル、DTEスピードの順に返す。		
		W2 接続時にエラー訂止フロトコル、DCEスピードの順に返す		
接続時のリサルトコードの	X	モテム接続時のリテルトコードの孤張方法を指定する。		
設定		X0 払張リサルトコード表示なし。ダイヤルトーン・詰中音検出		
		X1 払張リサルトコート表示のリ。ダイヤルトーン・話中音検出		
		なし。	,	,
		A2 払扱リリルトコート衣示のリ。ダイヤルトーノ検山のり。話	Ľ	,
		中百快山なし。 >> が渡いザルトコービキニキハ ダイヤルトーン検出かり 新		
		∧3 拡張リッルトコート衣小のリ。ライドルトーノ検山なし。 由 辛 ☆ 山 ち 1		
		〒日秋山のり。 >4 並得しぜルトコードキテカロ ダイヤルトーン。新中音検出		
		∧ 3 3 3 5 2 2 2 2 1 1 1 1 1 2 1 2 3 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
ブレーク信号の動作指定	Y	ジベ エネロ1917 ル ブレーク信号に関する動作を指定する		
ァァ 기미그 아페 iF jii 化	'	ンシーンはつにほう VSUIFで消化する。 Y0 プレーク信号を受信しても、回線を切断しない Y 工場出券店)		
モデムの初期化	7	モデルを不揮発性メモリの保在内容で初期化する		
	-	27 不揮発性メモリのプロファイルのの保存内容で初期化する。		
		21 不揮発性メモリのプロファイル1の保存内容で初期化する		
		プロファイル()と1は同じプロファイルです。		

()AT&Wでバックアップ可能

種類	ATコマンド	機能
キャリア検出信号(CD)	&C	CD信号(DCD)の動作を指定する。
の動作		& C0 CD信号を常にONにする。
		&C1 CD信号はキャリアが検出されるとONになる(工場出荷
		時)。
データ端末レディ	&D	DTR信号がONからOFFに変化した場合の動作を指定する。
		&D0 DTR信号は無視し、常にONとして扱う。
		&D1 DTR信号がOFFになると、コマンドモードになる。
		&D2 DTR信号がOFFになると、回線を切断しコマンドモード
		になる(工場出荷時)。
		&D3 DTR信号がOFFになると、回線を切断し初期化される
		(ATZ コマンド実行状態になる)。
パラメータの初期化	& F	各種パラメータを工場出荷時の設定に戻す。
ガードトーンの設定	& G	モデムのガードトーンの有無を指定する。
		&G0 ガードトーンなし(工場出荷時)。
		&G1 550Hz ガードトーンあり。
		&G2 1800Hz ガードトーンあり。
DTE のフロー制御	&K	DTE(パソコン側)のフロー制御(RTS/CTS, XON/XOFF)
		を指定する。
		&K0 フロー制御しない。
		&K3 RTS/CTS フロー制御をする(工場出荷時)。
		&K4 XON/XOFF フロー制御をする。
通信モードの設定	& M	通信モードを指定する(&Qの一部コマンドと同様)。
		& M0 ダイレクト非同期モードで接続する。
ダイヤルパルススピードの	& P	ダイヤルパルスのスピードを指定する。
設定		&P1 ダイヤルパルスを10PPSにする(工場出荷時)。
		&P2 ダイヤルパルスを 20PPS にする。
通信モードの設定	&Q	通信モードを指定する。
		&Q0 ダイレクト非同期モードで接続する。
		&Q5 エラー訂正プロトコルで接続する(工場出荷時)。
		&Q6 ダイレクト非同期モードで接続する。
		&Q8 MNP エラー訂正プロトコルで接続する。
		&Q9 V.42またはMNPエラー訂正プロトコルで接続する。
データセットレディ(DSR)	& S	DSR 信号の動作を指定する。
の制御		&SO DSR信号は常にON(工場出荷時)。
		&S1 DSR 信号が回線接続中に ON になる。
モデムの設定状況の表示	&V	コマンドおよびSレジスタの設定状況を表示する。
パラメータの書き込み	& W	現在の設定されている状態を、不揮発性メモリに書き込む。
		&W0 不揮発性メモリのプロファイル0に書き込む。
		この値は、電源を入れたとき、またはATZnコマンドで初期化
		したときに使われる。各々のコマンドを参照。
プロファイルの設定	& Y	電源立ち上げ時のプロファイル読み込みを設定する。
		&Y0 プロファイル0を指定する。
電話番号の保存	& Z	ATDS=(n)コマンドでダイヤルする場合の電話番号を指定する。
		&Zn=XXXXX n=0~3、XXXXXは電話番号(40桁以下)
		(例)AT&Z2=03-1234-5678
		ダイヤル番号バッファ2に指定の番号を保存する。
		電話番号として使用できるのは、ATDコマンドの電話番号
		のうち「;」「S=n」以外のコマンド。

潘	ATコマンド	機能
データ圧縮の指定	%C	データ圧縮の方法を指定する。
		%C0 データ圧縮をしない。
		%C1 V.42bis/MNP5のデータ圧縮を行う(工場出荷時)。
リトレーニング等の自動再	%E	回線の状態を監視して、状態が変化した場合や悪い場合に、
実行		トレーニングシーケンスの再実行(リトレーニング)、回線速度を
		変更するかどうかの指定をする。
		%E0 リトレーニングを自動で再実行しない。
		%E1 %E0 と同じ。
		%E2 リトレーニングを自動で再実行する。
		データエラーが多い場合のリトライ動作を指定するものでは
		ありません。
最大プロックサイズの設定	¥A	MNPで接続する時のプロックサイズを指定する。
		¥A0 最大ブロックサイズ64。
		¥A1 最大プロックサイズ128。
		¥A2 最大ブロックサイズ192。
-		¥A3 最大プロックサイズ256(工場出荷時)。
プレーク信号を送信	¥B	n×100msのブレーク信号を送信する。n=1~9
プレーク信号の動作	¥K	ブレーク信号を受けたときの動作を指定する。
		·オンラインモード(V.42/ノーマルモード)時にパソコンからプレ
		¥K0 コマンドモードになる。相手モデムにはブレークを送らない。
		¥K1 データバッファを空にして、相手モデムにブレークを送る。
		¥K3 ハッファのテータより優先して相手モテムにフレークを
		送る。
		¥K4 ¥K0 2回し。
		¥K5 バッファのナーダを送った彼 C、相手モナムにフレーク た送る
		そとる。 ・ナンラインコマンドモード時に パンコンから×pコマンドに トスプ
		¥K0 データバッファを空にして 相手モデムにブレークを送る
		¥K1 データバッファを空にして、相手モデムにブレークを送る。
		¥K2 バッファのデータより優先して相手モデムにプレークを
		送る。
		¥K3 バッファのデータより優先して相手モデムにプレークを
		送る。
		¥K4 バッファのデータを送った後で、相手モデムにプレーク
		を送る。
		¥K5 バッファのデータを送った後で、相手モデムにプレーク
		を送る。
		・オンラインモード(V.42/ノーマルモード)時に相手モデムから
		プレークを受けた。
		¥K0 データバッファを空にして、パソコンにプレークを送る。
		¥K1 データバッファを空にして、パソコンにプレークを送る。
		¥K2 バッファのデータより優先してパソコンにプレークを送る。
		¥K3 バッファのデータより優先してパソコンにプレークを送る。
		¥K4 バッファのデータを送った後で、パソコンにプレークを送る。
		¥K5 バッファのデータを送った後で、バソコンにプレークを送る。

種類	ATコマンド	機能
通信モードの設定	¥N	エラー訂正プロトコルの動作を設定する。
		¥N0 ノーマルモードで通信する。V.42,MNPは使用しない。
		¥N1 ダイレクトモードで通信する。
		¥N2 MNPモードで接続する。相手モデムがMNPモードで
		ない場合は接続しない。
		¥N3 V.42, MNPモードで接続する(工場出荷時)。
		相手モデムがV.42,MNPでない場合は、ノーマルモー
		ドで接続する。
		¥N4 V.42モードで接続できる。相手モデムがV.42でない場
		合は接続しない。
		¥N5 ¥N3と同じ。
		¥N7 ¥N3と同じ。
		V.42,MNPの場合は、V.42 MNPの順に相手モデムとの
		接続を試す。
		&M、&Qコマンドも参照。
DTE のフロー制御	¥Q	DTE(パソコン側)のフロー制御(RTS/CTS、XON/XOFF)
		を指定する。
		¥Q0 フロー制御をしない。
		¥Q1 XON/XOFF フロー制御をする。
		¥Q3 RTS/CTS フロー制御をする(工場出荷時)。
		&Kコマンドを参照。
拡張リザルトコードの指定	¥٧	拡張リザルトコードを指定する。
		¥V0 拡張リザルトコードを使用しない。
		¥V1 拡張コードにエラー訂正の表示をする。
		¥V2 ¥V1と同じ。
V.90のイネーフル/ディセ	-V90=	·V90=0 V.90のディセーブル
ーフルと、トリ通信速度の		- 1 相手モデムとの通信速度決定を目動で行う(上場
設定		
		- V90=2 通信迷皮を28000DPSに設定9る。
		- V90=3 通信迷皮を29333DPSに設定9る。
		- V90=4 通信迷皮を30000DPSに設定9る。
		- V90=5 通信速度を3230000psに設定する。
		-V90-7 通信速度を34666bpsに設定する。
		-V90-8 通信速度を36000bpsに設定する。
		-V90-9 通信速度を3733bnsに設定する。
		·V90=10 通信速度を38666bpsに設定する。
		-V90=11 通信速度を40000bpsに設定する。
		·V90=12 通信速度を41333bpsに設定する。
		-V90=13 通信速度を42666bpsに設定する。
		·V90=14 通信速度を44000bpsに設定する。
		-V90=15 通信速度を45333bpsに設定する。
		-V90=16 通信速度を46666bpsに設定する。
		-V90=17 通信速度を48000bpsに設定する。
		-V90=18 通信速度を49333bpsに設定する。
		-V90=19 通信速度を50666bpsに設定する。
		-V90=20 通信速度を52000bpsに設定する。
		-V90=21 通信速度を53333bpsに設定する。
		-V90=22 通信速度を54666bpsに設定する。
		-V90=23 通信速度を56000bpsに設定する。
		-V90? 現在の設定値を表示する。
		-V90=? 設定値の範囲(0~23)を表示する。

録

種類	ATコマンド	機能
エスケープ	+ + +	オンラインモードの時、パソコンから前後1秒間(S12レジスタで
		設定可能)の時間をあけて、「+++」のコマンドが入力され
		ると、回線を切断することなく、コマンドモードに移る。
		「+++」の前後に他の文字が入力されるとエスケープコマン
		ドと判断されないので(CR)等は入力しないこと。

◆チェック! ・相手FAXが音声応答FAXの場合、接続できない可能性があります。その場合は以下のコマンドによりBUSYトーン検出をOFFにしてください。 コマンド構文:ATX0

・外付け電話機使用中に以下に示すATコマンドを実行すると回線が切り替わります。

コマンド構文:ATD、ATH1、ATA

リザルトコード

数空	☆ 字	内容
<u>~</u>	ок 🎽 🧳 ј	コマンドラインの実行確認
1	CONNECT	接続
2	RING	リンギング検出
3		キャリアおよびリングバック検出せず
4	ERROR	コマンド構文違いおよび存在しないコマンド
5	CONNECT 1200 EC	1200bpsのポートまたはモデム速度で接続
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーン検出せず
7	BUSY	BUSY トーン 検出
8	NO ANSWER	S7タイマーが切れるまで連続的にリングバックを検出
10	CONNECT 2400 EC	2400bps で接続
11	CONNECT 4800 EC	4800bps で接続
12	CONNECT 9600 EC	9600bps で接続
13	CONNECT 14400 EC	14400bps で接続
14	CONNECT 19200 EC	19200bps で接続
24	CONNECT 7200 EC	7200bps で接続
25	CONNECT 12000 EC	12000bps で接続
86	CONNECT 16800 EC	16800bps で接続
40	CONNECT 300 EC	300bps で接続
55	CONNECT 21600 EC	21600bps で接続
56	CONNECT 24000 EC	24000bps で接続
57	CONNECT 26400 EC	26400bps で接続
58	CONNECT 28800 EC	28800bps で接続
59	CONNECT 31200 EC	31200bps で接続
60	CONNECT 33600 EC	33600bps で接続
28	CONNECT 38400 EC	38400bps で接続
18	CONNECT 57600 EC	57600bps で接続
70	CONNECT 32000 EC	32000bps(K56flexまたはV.90)で接続
71	CONNECT 34000 EC	34000bps(K56flex)で接続
72	CONNECT 36000 EC	36000bps(K56flexまたはV.90)で接続
73	CONNECT 38000 EC	38000bps(K56flex)で接続
74		40000bps(K56flexまたはV.90)で接続
75		42000bps(K56flex)で接続
76		
70		460000ps(K5611ex)で接続
78		400000ps(K56flex)7倍に、10000500000000000000000000000000000000
79	CONNECT 52000 EC	52000bps(K56flav キたけ) 00)で控結
00	CONNECT 54000 EC	54000bps(K56flax) 7 连结
82	CONNECT 56000 EC	56000bps(K56flex)で接続
87	CONNECT 115200 EC	115200hps で按続
88		接続は延期された
89	BLACKLISTED	再ダイヤル規制によりダイヤルを実行できない
100	CONNECT 28000 EC	28000bps (V.90)で接続
101	CONNECT 29333 EC	29333bps (V.90)で接続
102	CONNECT 30666 EC	30666bps (V.90)で接続
103	CONNECT 33333 EC	33333bps(V.90)で接続
104	CONNECT 34666 EC	34666bps (V.90)で接続
105	CONNECT 37333 EC	37333bps (V.90)で接続
106	CONNECT 38666 EC	38666bps (V.90)で接続
107	CONNECT 41333 EC	41333bps (V.90)で接続
108	CONNECT 42666 EC	42666bps (V.90)で接続

数字	文 字	内	容
109	CONNECT 45333 EC	45333bps (V.90)で接続	
110	CONNECT 46666 EC	46666bps (V.90)で接続	
111	CONNECT 49333 EC	49333bps (V.90)で接続	
112	CONNECT 50666 EC	50666bps (V.90)で接続	
113	CONNECT 53333 EC	53333bps (V.90)で接続	
114	CONNECT 54666 EC	54666bps (V.90)で接続	

ジチェック ℓ ECは拡張リザルトコードオプションが有効のときに出現します。ECは使用 されるエラー制御方法によって、以下のシンボルのいずれかに置き換わりま す。

V.42bis: V.42エラー訂正とV.42bisデータ圧縮

- V.42 : V.42**エラー訂正のみ**
- MNP5 : MNP4エラー訂正とMNP5データ圧縮
- MNP4 : MNP4**エラー訂正のみ**
- NoEC : エラー訂正なし

Sレジスタ

Sレジスタ	範囲	単位	初期値	機能
S0	0~15		0	自動着信のリングの回数
S1	0~255	回	0	受信しているリングの回数
\$2	0~255	ASCII	43	エスケープ・シーケンスのコード
\$3	0~127	ASCII	13	キャリッジリターン・コード
S4	0~127	ASCII	10	ラインフィード・コード
S5	0~32,127	ASCII	8	パックスペース・コード
S6	4~255	秒	4	ダイヤルトーン検出時間
S7	35~59	秒	50	相手モデムと接続するまでの許容時間
S8	2~65	秒	2	ダイヤル時の「,」によるポーズ時間
S10	1~255	1/10 秒	20	キャリア・ロス検出時間
S11	70~150	1 ミリ秒	95	PB トーン・スピード
\$12	0~255	0.02 秒	50	エスケープシーケンスのガードタイム
S28	0~255	-	1	V.34のイネーブル/ディセーブル
				S28=0 V.34 のディセーブル
				S28=1~255 V.34のイネーブル
\$35	0~1	-	0	データ・コーリング・トーン
				データ・モデム接続のコーリング・トーン
				(1300Hz0.5秒オン2秒オフ)のイネーブル/デ
				ィセーブル
				S35=0 ディセーブル
				S35=1 イネーブル
\$37	(ビットマップ)	-	0	V.34接続スピード
				S37=0 最大モデムスピード
				S37=1 予約済み
				S37=2 1200/75bit/s
				\$37=3 300bit/s
				S37=4 予約済み
				\$37=5 1200bit/s
				S37=6 2400bit/s
				S37=7 4800bit/s
				S37=8 7200bit/s
				S37=9 9600bit/s
				S37=10 12000bit/s
				S37=11 14400bit/s
				S37=12 16800bit/s
				S37=13 19200bit/s
				S37=14 21600bit/s
				S37=15 24000bit/s
				\$37=16 26400bit/s
				\$37=17 28800bit/s
				\$37=18 31200bit/s
				\$37-19 33600bit/s

Sレジスタ	範囲	単位	初期値	機能
\$38	0~14	-	1	K56flexのイネーブル/ディセーブルと下り通信
				速度
				S38=0 K56flex ディセーブル
				S38=1 最大モデムスピード
				\$38=2 32000bit/s
				\$38=3 34000bit/s
				S38=4 36000bit/s
				\$38=5 38000bit/s
				S38=6 40000bit/s
				S38=7 42000bit/s
				S38=8 44000bit/s
				S38=9 46000bit/s
				S38=10 48000bit/s
				S38=11 50000bit/s
				S38=12 52000bit/s
				S38=13 54000bit/s
				S38=14 56000bit/s
S89	0,5~255	秒	10	スリープモードタイマー
				スタンパイモードに入るまでの非活動時間(DTE
				からデータが来ないこと、かつ、リング信号が検
				出されないこと)を規定します。
				S89=0 スタンパイモードには入りません。
				S89=5~255 5~255 秒間の非活動が検出さ
				れた後で、スタンパイモードに入
				ります。

◆チェック ?! S0レジスタを0以外の値でパックアップすると、通信用アプリケーションの
 起動状態によらずに設定された呼び出し回数で着信します。



工場出荷時の割り込みレベルは、次の通りです。割り込みを変更する方法 については、「PART2 システム設定(P.89)をご覧ください。



MA45D/M, MA35D/M

割り込み優先順位	割り込みデバイス	
IRQ00	カウンタおよびタイマ	
IRQ01	PS/2 接続キーボード	
IRQ02	カスケード	
IRQ03	シリアルポートB	
IRQ04	シリアルポートA	
IRQ05	(空き)	
IRQ06	フロッピーディスクドライブ	
IRQ07	パラレルポート	
IRQ08	リアルタイムクロック	
IRQ09	USB およびサウンド(シェア)	
IRQ10	LAN または FAX	
IRQ11	グラフィック	
IRQ12	PS/2 接続マウス	
IRQ13	数値演算コプロセッサ	
IRQ14	プライマリIDE	
IRQ15	セカンダリ IDE	

IRQ03、IRQ04を別のI/O機器に変更する場合は、シリアルポートA、シリアルポートBをロックしてください。

参照 「PART2 システム設定」セキュリティの設定」の「I/Oロック(P.105)

3 付

鋟



MA45D/S、MA40D/S、MA35D/S

割り込み優先順位	割り込みデバイス	
IRQ00	カウンタおよびタイマ	
IRQ01	PS/2 接続キーボード	
IRQ02	カスケード	
IRQ03	(空き)	
IRQ04	シリアルポートA	
IRQ05	(空き)	
IRQ06	フロッピーディスクドライブ	
IRQ07	パラレルポート	
IRQ08	リアルタイムクロック	
IRQ09	USB およびサウンド(シェア)	
IRQ10	(空き)	
IRQ11	LAN または FAX	
IRQ12	PS/2 接続マウス	
IRQ13	数値演算コプロセッサ	
IRQ14	プライマリIDE	
IRQ15	セカンダリ IDE	



MA36H/S, MA33H/S, MA30H/S

割り込み優先順位	割り込みデバイス	
IRQ00	カウンタおよびタイマ	
IRQ01	PS/2 接続キーボード	
IRQ02	カスケード	
IRQ03	シリアルポートB	
IRQ04	シリアルポートA	
IRQ05	(空き)	
IRQ06	フロッピーディスクドライブ	
IRQ07	パラレルポート	
IRQ08	リアルタイムクロック	
IRQ09	USB およびサウンド(シェア)	
IRQ10	LAN または FAX	
IRQ11	グラフィック	
IRQ12	PS/2 接続マウス	
IRQ13	数値演算コプロセッサ	
IRQ14	プライマリIDE	
IRQ15	セカンダリIDE	

3 付

録



MA45D/C、MA40D/C、MA35D/C

割り込み優先順位	割り込みデバイス	
IRQ00	カウンタおよびタイマ	
IRQ01	PS/2 接続キーボード	
IRQ02	カスケード	
IRQ03	(空き)	
IRQ04	シリアルポートA	
IRQ05	(空き)	
IRQ06	フロッピーディスクドライブ	
IRQ07	パラレルポート	
IRQ08	リアルタイムクロック	
IRQ09	USB およびサウンド(シェア)	
IRQ10	LAN または FAX	
IRQ11	グラフィック	
IRQ12	PS/2 接続マウス	
IRQ13	数値演算コプロセッサ	
IRQ14	プライマリIDE	
IRQ15	セカンダリ IDE	



MA36H/C、MA30H/C、MA30H/L

割り込み優先順位	割り込みデバイス	
IRQ00	カウンタおよびタイマ	
IRQ01	PS/2 接続キーボード	
IRQ02	カスケード	
IRQ03	(空き)	
IRQ04	シリアルポート(A)	
IRQ05	(空き)	
IRQ06	フロッピーディスクドライブ	
IRQ07	パラレルポート	
IRQ08	リアルタイムクロック	
IRQ09	USB およびサウンド(シェア)	
IRQ10	(空き)	
IRQ11	LAN または FAX	
IRQ12	PS/2 接続マウス	
IRQ13	数値演算コプロセッサ	
IRQ14	プライマリIDE	
IRQ15	セカンダリ IDE	

3 付 録

DMA チャネルの割り当て

工場出荷時のDMAチャネルの割り当ては、次の通りです。

DMA	データ幅	システムリソース
0	8 または 16 ビット	(空き)
1	8 または 16 ビット	(空き)
2	8 または 16 ビット	フロッピーディスク
3	8 または 16 ビット	(空き)
4		予約(カスケードチャネル)
5	16 ビット	(空き)
6	16 ビット	(空き)
7	16 ビット	(空き)



本機のお手入れは、それぞれ次の要領で行ってください。



- ◆チェック ?? ・水や中性洗剤は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでくだ
 さい。故障の原因になります。
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しな いでください。本体の外装をいためたり、故障の原因となったりします。

マウスのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪 くなります。とくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングして ください。ローラーだけクリーニングするときは、4~6の手順は省略し てもかまいません。

- 1 本機の電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す
- 2 マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる



3 ボール止めを取り外し、ボールを取り出す



- 4 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす
- 5 水で中性洗剤を洗い落とす
- 6 布で水分をふき取り、風通しの良いところで充分に乾燥させる
- 7 マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり 落とす 汚れが落ちないときは、柔らかい歯プラシなどで汚れを取ります (このとき、歯プラシに水やはみがき粉などを付けないでくださ)

い)。
ローラーとボールが
接触する部分に汚れ
がつきやすい
ローラー
ローラー

8 ボールをマウスに戻す

9 ボール止めを取り付け、手順2と逆の方向に回して固定

● チェック // ・クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。

- ・クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにして ください。
- ・水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因とな ります。
- ・シンナーやペンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外 装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ・ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属プラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。

3

付

緑



AC DE BES

このマニュアルはエコマーク認定の 再生紙を使用しています。

活用ガイド ハードウェア編

PC98-NX DU-X Mate NX

(Windows 98 インストールモデル)

第二版 1999年1月 NEC P

808-877675-087-A2